

## 令和4年度展覧会

### 展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」にふさわしい展覧会を開催する。

また、新たな日常に対応しつつも感染症拡大防止の観点から、今年度も引き続き自宅や海外からでも写真・映像文化を楽しめるよう、出品作家による解説や対談、展示風景紹介など展覧会と連動した様々なオンラインコンテンツを発信し、鑑賞機会の創出を行う。

### ○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

### ○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

### ○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

### ◇収蔵展

世界でも有数の3万7千点を超える写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画・実施した。

### (1) TOPコレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、収蔵作品の中から毎年テーマを設定し、珠玉の名品を紹介する展覧会を開催している。「TOPコレクション メメント・モリと写真」では、「メメント・モリ」をテーマに、人々が死と向き合いながらも、いかにしてたくましく生きてきたかを約150点の作品から探り、「メメント・モリ」と「写真」の密接な関係性を再考した。

### (2) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

「アヴァンガルド勃興 近代日本の前衛写真」は、1930年代から40年代までの間に、日本全国のアマチュア団体を中心に勃興した近代写真史における前衛写真の潮流を紹介した。日本における「前衛写真」の活動は、太平洋戦争前の一時期と短く、それら内容の詳細について検証が十分になされていなかったが、近年、同時代の作品研究が国内外で進み、評価や関心が高まる中、内外でも注目の高い前衛作品を当館のコレクションを中心に紹介した。

### (3) 旬のミドルキャリア作家個展

国内外で活躍が著しく、国際的にも高い評価を受けているミドルキャリア作家の野口里佳の個展「野口里佳 不思議な力」を開催した。野口はこれまでに水中や高地、宇宙といった未知の領域と人間との関わりをテーマに作品を手がけ、見るものの感覚や想像を解き放つような表現を追求してきた。本展は初期作品から最新作ま

で、時間や場所を越えていく「不思議な力」に導かれるように、野口がこれまでに出会ってきた様々な現象や光景を幅広く写し出し、写真・映像の持つ「不思議な力」に触れる機会となった。

### (4) 映像展

「イメージ・メイキングを分解する」展では、写真、映画やテレビ等の視覚表現や目に見えるものから心にかんだことまで、イメージに形を与えることを「イメージ・メイキング」と呼び、東京都写真美術館が収蔵するイメージ・メイキングのための装置や機器の紹介を通じて、技術や原理を紹介するとともに、イメージ・メイキングを新たなものとして再発明した国内外の作家作品を紹介した。

### ◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に使い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を国際動向もふまえて実施した。

### (1) 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるためのシリーズ。第19回となる本展は「見るは触れる」をテーマに、写真・映像イメージの持つテクスチュア（手触り）を起点にしながら、写されたイメージのみならず、イメージの支持体となるメディアそれ自体への考察をうながす5人の新進作家の試みを紹介した。（出品作家：水木壘、澤田華、多和田有希、永田康祐、岩井優）

### (2) 重点収集作家個展

第二期重点収集作家のひとり、深瀬昌久の個展「深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ」を開催した。1960年代から70年代という、日本写真史の黄金時代に、荒木経惟や森山大道らと時代を同じくした深瀬昌久（1934-2012）をとりあげ、東京都写真美術館のコレクションをベースに代表作により構成し、作家自身の魅力的な人物像を浮き彫りにしながら、表現の特異性を検証した。

### (3) 恵比寿映像祭2023

第15回となる今回は、「テクノロジー？」を総合テーマに、恵比寿ガーデンプレイスや近隣施設などを会場に、地域と連携しながら、展示、上映、教育普及プログラム、野外展示、トークやシンポジウム等、多彩なプログラムを実現した。また、今回新たに始まった「コミッション・プロジェクト」では日本を拠点に活動する新進気鋭のアーティスト4名を選出し、制作委嘱した映像作品を恵比寿映像祭2023の成果として発表した。

### ◇誘致展

写真団体や企業、マスコミ等と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて  
Geneses of Photography in Japan: Hakodate

期間：令和4年3月2日（火）～5月8日（日）34日間（令和4年4月1日以降の開館日数）  
会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

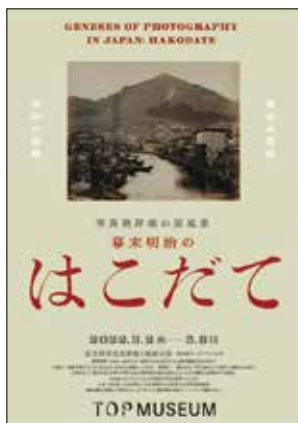
日本に写真技術が伝来した地域をとらえた「写真発祥地の原風景」シリーズ展の第二弾として「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」を開催。19世紀中葉に江戸時代が終焉し、日本は西洋文化を取り入れた近代国家へと向かった。幕府が治める最北端の港湾都市であった箱館は、蝦夷地（現・北海道）の統治や紛争平定、外交といった行政の重要な役割を担い、幕末期に開港すると、ロシア人より伝えられた技術を起点に写真文化が華開いた。第一章では幕末から明治初頭における「はこだて」の歴史を写真および関連資料から概観。第二章では、制作者に焦点を当て、「はこだて」を撮影した写真家と、同時代に使用された写真技術を紹介。最終章では、幕末から明治へ移り変わる「はこだて」の街並みを初公開のパノラマ写真を含めた初期写真のオリジナルプリントによって展覧。箱館（近世）から函館（近代）へと移りゆく北方の港湾都市の文化を初期写真のオリジナルプリントによって再構築した。

出品作家：林子平、秋芳、ライムント・フォン・シュティルフリート、エリファレット・ブラウン・ジュニア、トマス・シンクレア、W・ハイネ、ヨシフ・アントノヴィチ・ゴシケーヴィチ、イワン・マホフ、江崎礼二、田本研造、永島孟齋、早川徳之助、月岡芳年、岩橋教章、紺野松次郎、池田種之助、阿部義一、児玉永成、浅野文輝、川瀬善一、木津幸吉、武林盛一、井田倅吉、野口源之助、エミル・ライスフェルト、堀内信重、錦古里孝治、石渡刀祢三、鹿野忠平、ポール・スタブラー、昌宣、村上貞助、トマス・ライト・ブラキストン、ヘンリー・ジェームズ・ストヴィン・ブライヤー、鈴木真一、田本繁

出品点数：191点  
入場者数：10,388人（令和4年3月2日～5月8日）  
企画：三井圭司  
担当：遠藤みゆき

展覧会図録

『写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて』  
執筆：大塚和義、高橋則英、大下智一、奥野進、三井圭司、遠藤みゆき  
編集・発行：東京都写真美術館



TOPコレクション 光のメディア  
TOP Collection Light as Medium

期間：令和4年3月2日（火）～6月5日（日）58日間（令和4年4月1日以降の開館日数）  
会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

「TOPコレクション 光のメディア」展では、英語のフォトグラフ（Photograph）の語源が「光で描く」という意味を持つことに注目し、記録性を超えて生み出される「創造性」に焦点を当てる。このメディアの本質は光を支持体（紙など）に取り込むことにあり、写真誕生以来、アーティストたちは芸術表現の手段として、さまざまな表現形式を生み出し、不可視のエネルギーさえも画像につなぎとめようと試みた。本展では創造性あふれる29人のアーティストたちによる作品を、TOPコレクションに加え、アーティストやギャラリー、コレクターが所蔵する貴重な作品を集めて紹介する。

出品作家：アルフレッド・スティーグリッツ、アンセル・アダムス、マイナー・ホワイト、バーバラ・モーガン、ウォルター・チャペル、ジャロミール・ステファニー、ポール・カポニグロ、エメット・ゴーウイン、エドムンド・テスケ、ハリー・キャラハン、ジェームズ・ウェリング、佐藤時啓、糸井潤、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット、アンナ・アトキンス、クリスチャン・シャド、ラースロー・モホイ＝ナジ、マン・レイ、杉村恒、瑛九、ロール・アルバン＝ギヨー、田口和奈、杉浦邦恵、スーザン・ダージェス、アルヴィン・ラングドン・コバーン、ポール・ストランド、ヨゼフ・スデック、アンドレ・ケルテス、W.ユージン・スマス

出品点数：97点、資料9点  
入場者数：13,866人（令和4年3月2日～6月5日）  
企画：鈴木佳子

展覧会図録

『TOPコレクション 光のメディア』  
執筆：日高優（英文和訳）、鈴木佳子  
校閲・編集：山田真弓  
発行：東京都写真美術館



## アヴァンギャルド勃興 近代日本の前衛写真

### Avant-Garde Rising

#### The Photographic Vanguard in Modern Japan

期間：令和4年5月20日（金）～8月21日（日）81日間

会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

近代日本写真史における前衛写真は海外から伝わってきたシュルレアリスムや抽象美術の影響を受け、1930年代から1940年代までの間に全国各地のアマチュア団体を中心に勃興した写真の潮流である。活動時期が大変短い時期であったことなどで、その活動内容についてのあまり検証がなされていなかった。しかし近年各地の美術館によりその活動の研究が進み、海外でもその活動が注目されている。それまでも写真にとって絵画の影響は強いものだったが、前衛写真は画家だけではなく詩人やデザイナーなどが参加し、その活動の幅を広げていた。特に1937年に瀧口修造が山中散生（ちゆうせい）とともに企画した「海外超現実主義作品展」が開催されたことによって多くの写真家が触発され新しい表現へ向かい、画家たちは写真を使って、絵画では出来ない表現に挑戦していった。しかし、戦時下体制の強化とともに前衛表現は規制を受け、各地で行われていた活動も収束へと追い込まれていく。本展では、同時代に流行した前衛絵画との関係性なども考慮にいれ、シュルレアリスム運動とどのように関わっていったのかを展示した。

出品作家：マン・レイ、ウジェーヌ・アジェ、ハンス・ベルメール、アルベルト・レンガー＝パッチュ、セシル・ビートン、ブラッサイ、中山岩太、村田米太郎、安井仲治、河野徹、小石清、天野龍一、平井輝七、樽井芳雄、本庄光郎、椎原治、田淵銀芳、服部義文、矢野敏延、小林鳴村、音納捨三、ハナヤ勘兵衛、坂田稔、田島二男、山本悳右、後藤敬一郎、高橋渡、久野久、許斐儀一郎、田中善徳、吉崎一人、伊藤研之、永田一脩、恩地孝四郎、瑛九、濱谷浩

出品点数：183点

入場者数：18,066人

企画：藤村里美

### 展覧会図録

『アヴァンギャルド勃興 近代日本の前衛写真』

執筆者：イェレナ・ストイコヴィチ、藤村里美

編集：東京都写真美術館、国書刊行会

発行：国書刊行会



## TOPコレクション メメント・モリと写真

### 死は何を照らし出すのか

#### TOP Collection: The Illumination of Life by Death

#### Memento Mori&Photography

期間：令和4年6月17日（金）～9月25日（日）87日間

会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

「メメント・モリ（死を想え）」をテーマに、人々がどのように死と向き合いながらも、逞しく生きてきたかを約150点の写真作品等から探り、困難を伴う時代を前向きに生き抜くための想像力を刺激する展覧会。

ラテン語で「死を想え」を意味する「メメント・モリ」は、人々の日常がいつも死と隣りあわせであることを示す警句である。この言葉は、ペストが大流行した14～17世紀の中世キリスト教世界において、骸骨と人間が踊る様子を描いた「死の舞踏」と呼ばれるイメージと結びつき、絵画や音楽など芸術作品の題材として広く伝播していった。一方で、写真もまた、死を想起させるメディアであることが数多くの写真論の中で度々言及されている。本展では、死の図像を描いた版画作品を出発点に、約36,000点の収蔵作品のなかから珠玉の名品を展示し、19世紀から現代を代表する写真群によって、死と写真、そして、死から照らし出される生との密接な関係性について再考した。

出品作家：ハンス・ホルバイン（子）、マリオ・ジャコモメリ、ロバート・キャパ、澤田教一、セバスチャン・サルガド、ウォーカー・エヴァンズ、W.ユージン・スマイス、リー・フリードランダー、ロバート・フランク、牛腸茂雄、ウィリアム・エグルストン、ダイアン・アーバス、荒木経惟、ウジェーヌ・アジェ、ヨゼフ・スデック、小島一郎、東松照明、藤原新也

出品点数：145点（写真作品120点、版画作品25点）、資料7点

入場者数：27,353人

企画：浜崎加織

### 展覧会図録

『TOPコレクション メメント・モリと写真』

執筆者：藤原新也、浜崎加織、山野井千晶

編集・発行：東京都写真美術館



イメージ・メイキングを分解する  
Reinventing Image-Making

期間：令和4年8月9日（火）～10月10日（月・祝）55日間  
会場：B1階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
／日本経済新聞社  
助成：公益財団法人吉野石膏美術振興財団

本展は映画や写真、脳内の印象を包括する「イメージ」という概念と、それに形を与える営為である「イメージ・メイキング」がテーマである。東京都写真美術館の収蔵資料である映像装置を通じてイメージ・メイキングの多様な技術や原理を紹介するとともに、その技術自体に注目し、分解したり要素を組み替えたりしながら、標準化されたイメージへの批評を加えてきた作家たちの挑戦的な作品を紹介した。

1970年代に制作された初期コンピュータ・グラフィックスの版画から、メディア・アートの国際的重要作家である藤幡正樹、木本圭子、タマシュ・ヴァリツキーによる作品を展示。木本は代表的な平面、立体、映像作品とともにそのプロセスを記録した膨大な「制作ノート」を初公開。藤幡は発表機会の少ない2004年のインスタレーション《ルスカの部屋》を改修して展示した。ヴァリツキーは遠近法の普遍性を問う初期代表作とあわせて、当館収蔵資料とも親和性の高い、既存の視覚・光学機器をベースに「有り得たかもしれない」想像上のカメラをデザインしたグラフィック作品を展示した。

出品作家：木本圭子、藤幡正樹、タマシュ・ヴァリツキー、Art Ex Machina (6名の作家 川野洋、マンフレッド・モール、ゲオルク・ネース、ケネス・ノウルトン、フリーダー・ナーケ、マヌエル・バルバディージョによる版画のポートフォリオ)

出品点数：69点  
入場者数：10,675人  
企画：多田かおり

展覧会図録

『イメージ・メイキングを分解する』  
執筆者：木本圭子、藤幡正樹、タマシュ・ヴァリツキー、多田かおり  
編集：多田かおり、山田裕理、大林寛、坂間菜未乃  
発行：東京都写真美術館



野口里佳 不思議な力  
Noguchi Rika: Small Miracles

期間：令和4年10月7日（金）～令和5年1月22日（日）89日間  
会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

1995年「写真3.3㎡（ひとつぼ）」展と1996年「写真新世紀」展でのグランプリ受賞以降、〈フジヤマ〉（1997年-）、〈飛ぶ夢を見た〉（2003年）、〈太陽〉（2005-08年）、〈夜の星へ〉（2014-2015年）などの写真・映像作品を国内外の展覧会で発表し、国際的にも高い評価を受けている写真家・野口里佳の個展。本展は2014年以降に発表した作品を中心に新作を交え、写真・映像のもつ「不思議な力」をテーマとした。写真と映像、ドローイングによって構成される本展は、初期作品《潜る人》（1995年）から最新作《ヤシの木》（2022年）までを出品作品に含む内容となった。30年にわたって自由な写真・映像表現を追求してきた作家の過去の作品と近作・新作を制作年代順によらず再構成し、その魅力に新たな光を当てた。

出品作家：野口里佳  
出品点数：50点  
入場者数：27,743人  
企画：石田哲朗

展覧会図録

『野口里佳 不思議な力』  
執筆者：吉本ばなな、石田哲朗  
編集：石田哲朗、伊藤貴弘  
発行：赤タ舎



## 自主企画展

### 見るは触れる

日本の新進作家 vol.19

Seeing as though touching

Contemporary Japanese Photography vol.19

期間：令和4年9月2日（金）～12月11日（日）87日間

会場：3階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞

助成：芸術文化振興基金

協賛：東京都写真美術館支援会員

後援：J-WAVE 81.3FM

写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するため、新しい創造活動の展開の場として2002年より開催している「日本の新進作家」展の第19回目となる展覧会。本展では、写真・映像イメージの持つテクスチャ（手触り）を起点に、写されたイメージだけでなく、イメージの支持体となるメディアをそれ自体への考察をうながす、5名の新進作家の試みを紹介した。

出品作家：水木壘、澤田華、多和田有希、永田康祐、岩井優

出品点数：23点

入場者数：21,147人

企画：遠藤みゆき

### 展覧会図録

『見るは触れる 日本の新進作家 vol.19』

執筆者：遠藤みゆき

編集・発行：東京都写真美術館

### 深瀬昌久 1961-1991

レトロスペクティブ

Masahisa Fukase 1961-1991

Retrospective

期間：令和5年3月3日（金）～6月4日（日）25日間（令和5年3月31日までの開館日数）

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛：東京都写真美術館支援会員

深瀬昌久は自身の私生活を深く見つめる視点によって、1960年代の日本の写真史のなかで独自のポジションを築く。それは写真の原点を求めようとする行為でもあり、のちに「私写真」と呼ばれ、写真家たちが向かった主要な表現のひとつとして展開した。

本展では、〈遊戯〉〈洋子〉〈烏（鴉）〉〈家族〉など、主要作品を網羅した東京都写真美術館のコレクションに加え、当館がはじめて出品する《無題（窓から）》〈洋子〉、日本大学芸術学部が1980年代初頭に収蔵した〈烏（鴉）〉、個人所蔵の〈ブクブク〉〈サスケ〉ほか、充実した作品群によって構成。1960年代から90年代の初頭に活動した深瀬昌久の軌跡を辿り、彼独自の世界に触れる機会とした。

出品作家：深瀬昌久

出品点数：117点

入場者数：6,996人（令和5年3月31日現在）

企画：鈴木佳子

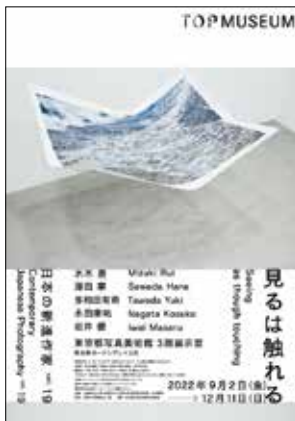
### 展覧会図録

『深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ』

執筆者：トモ・コスガ、鈴木佳子

編集：トモ・コスガ、東京都写真美術館

発行：赤々舎



## 第15回恵比寿映像祭2023

### テクノロジー?

## Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2023 Technology?

期間：令和5年2月3日（金）～2月19日（日）15日間  
\*コミッション・プロジェクト展示は3月26日（日）まで

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、日本経済新聞社

共催：サッポロ不動産開発株式会社、公益財団法人日仏会館

後援：在日スイス大使館、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、株式会社、TBSホールディングス、J-WAVE 81.3FM

協賛：リトアニア文化会議、EU・ジャパンフェスト委員会、サッポロビール株式会社、東京都写真美術館支援会員

恵比寿映像祭2023では、「テクノロジー?」というテーマを通して、多種多様な映像表現の実践を検証し、アートと技術との対話の可能性を考察した。展示プログラムでは、総合テーマ「テクノロジー?」のもと、時代ごとにアートと技術がどのような関係の中で、表現を生み出してきたかを考察することで、テクノロジーに溢れた現代を考えるヒントを探った。2F展示室では、アートと技術の関係を身体や機械、人工などの観点から紐解き、B1F展示室では、都市や自然の諸相をめぐるアーティストたちの表現や、そこに向けられた機械の眼などを歴史的に考察した。また「映像とは何か」という問いを引き続き深めていくために、日本を拠点に活動する新進アーティストを選出し、制作委嘱した映像作品を新たな恵比寿映像祭の成果として発表する「コミッション・プロジェクト」やシビック・クリエイティブ・ペース東京（CCBT）との連携をはじめとする、いくつかの新たな試みを開始することで、継続的なプラットフォームとしての映像祭の役割をさらに強化した。

### 展示|東京都写真美術館

#### ○3階展示室

コミッション・プロジェクト展示  
荒木悠／葉山嶺／金仁淑／大木裕之

#### ○2階展示室およびロビー

ルー・ヤン／Houxo QUE／細倉真弓／トリシャ・ブラウン／越田乃梨子／〈コンピュータ・グラフィックス アンソロジー〉他

#### ○地下1階展示室およびロビー

梅沢英樹＋佐藤浩一／築地仁／実験工房／北代省三／エメット・ゴウイン／ロール・アルバン＝ギョー／杉浦邦恵／山沢栄子／エンネ・ピアマン／フィオナ・タン

### 上映|東京都写真美術館1Fホール

ジョナス・メカス—3章のフィルム・プログラム ジョナス・メカス、マリー・メンケン／ペギー・アーウィッシュ特集—アート・オブ・ザ・モーター／飯村隆彦特集／井口奈巳特集／東京国際ろう映画祭—視覚の知性2023  
①牧原依里・零境（DAKEI）《LISTEN リッスン》②深川勝三《たき火》③牧原依里《田中家》④八幡亜樹《TOTA》／2.5Dと実写アニメーション—コマ撮りアニメーションを考える 最後の手段、磯部真也、にいやなおゆき／アニメーション? テクノロジー?—DigiCon6 ASIA ロヤ・サリミ、木原正天、崎村宙央、大柴拓、ムン・スジン、シャー・フェイ、ウィン・ヤン・リリアン・フー、許煒、西野朝来、金子勲矩、ン・カイ・チョン&ステップシー

### ライブ・イベント|東京都写真美術館1Fホール

#### soda (50秒)

青木真莉子、青木陵子、青崎伸孝、秋吉風人、麻生晋佑、荒川医、荒木悠、池崎拓也、イッタ・ヨダ、伊藤存、江口悟、岡田理、片岡純也＋岩竹理恵、金村修、KAYA（デボ・アイラース＋ケルスティン・ブレチュ）、窪田隆之、COBRA、小松浩子、佐藤純也、アロン・ジェント、庄司朝美、高橋耕平、たちはなひろし、田中和人、玉山拓郎、ナヴィッド・ヌール、花代＋斎藤玲児、甫木元空、細倉真弓、増本泰斗、サトミ・マツザキ、間部百合、南川史門、森田浩彰

### シンポジウム

#### ○東京都写真美術館1Fホール

「コミッション・プロジェクト—委嘱制作と映像作品の可能性」  
沖啓介、斎藤綾子、レオナルド・バルトロメウス、メー・アーダードン・インカワニット  
モデレーター 田坂博子

#### ○日仏会館ホール

「日仏会館共催企画」「テクノロジー?日本とフランスのメディア・アート」  
畠中実、サンソン・シルヴァン モデレーター 藤原邦一、藤村里美

### スペシャルトークセッション|東京都写真美術館1Fホール\*

#### [YEBIZO MEETS 地域連携コラボレーション展示]

「オフサイト展示カメラの自動化による創造のパラダイムシフト—オートメイトッド・フォトグラフィを参照点として」  
クレマン・ランブレ、小山泰介、齋藤精一、四方幸子 モデレーター：  
ジョナス・プルヴァ

#### [YEBIZO MEETS 地域連携オフサイト展示]

「環を成す／球を成す—《FORMING SPHERES》」  
野老朝雄、平本知樹 モデレーター、関昭郎

### 教育普及プログラム

- ①「やさしい日本語」による恵比寿映像祭ガイド
- ②恵比寿映像祭2023 見どころトーク
- ③インクルーシブ・プログラム  
「恵比寿映像祭2023について、みんなで話そう!」
- ④恵比寿映像祭を星占いガイド  
占星術：鏡リュウジ（占星術研究家）
- ⑤TOPボランティアによるアニメーションオープンワークショップ

## YEBIZO MEETS事業

### ① オフサイト展示※ | 恵比寿ガーデンプレイスセンター広場

《FORMING SPHERES》野老朝雄、平本知樹、井口皓太  
シビック・クリエイティブベース東京 (CCBT)  
アーティストフェローによる展示

### ② コラボレーション展示※ | 日仏会館ギャラリー

「オートメイトッド・フォトグラフィ」  
在日スイス大使館・ローザヌ美術大学 (ECAL)

### ③ 地域連携プログラム

日仏会館ホール/YEBISU GARDEN CINEMA/MA2Gallery/工房親  
/MuCuL/NADiff a/p/a/r/t/MEM/AL/ART FRONT GALLERY/  
N&A Art SITE/POETIC SCAPE/景丘の家/まなび場、恵比寿

出品作家：122組

出品点数：167点（展示108点、上映6プログラム57点、ライブ・イベント1  
点、オフサイト1点）

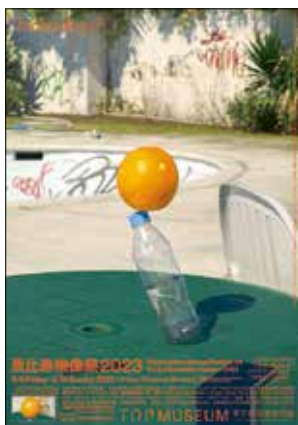
入場者数：59,684人

企画：田坂博子、伊藤貴弘、多田かおり、遠藤みゆき、藤村里美、大  
崎千野、小林麻衣子、山崎香穂、徳本宏子、武内厚子、関昭郎、  
鈴木彩子、池田良子、平澤綾乃

#### ガイドブック

編集：東京都写真美術館、内田伸一、杉本勝彦、江口よしこ  
発行：東京都写真美術館

※のプログラムは、「新たな鑑賞体験事業」として、恵比寿映像祭同  
時開催プログラムとして開催された。詳細P.61-62掲載。



本城直季 (un)real utopia  
Honjo Naoki: (un)real utopia

期間：令和4年3月19日（土）～5月15日（日）40日間（令和4年4月1日以  
降の開館日数）  
会場：地下1階展示室

主催：朝日新聞社／文化庁／独立行政法人日本芸術文化振興会  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
協賛：株式会社サンエムカラー  
協力：株式会社フレームマン／nap gallery

大判カメラの「アオリ」を利用して、都市の姿をジオラマのように  
撮影する独特の表現で知られる写真家・本城直季の初の大規模  
個展。本展では、2006年に木村伊兵衛写真賞を受賞した「small  
planet」シリーズをはじめ、独自の表現を生み出すまでの試行期の  
作品や、アフリカのサバンナを切り取った初公開シリーズ「kenya」、  
そして東日本大震災発生から3ヶ月後の東北を写した「tohoku 311」  
シリーズ、さらにはオリンピックイヤーの東京を被写体とした本展の  
ための撮り下ろし作品など、未公開作を含む約200点を展示し、写  
真家・本城直季の目を通して見る私たちの“まち”の不思議を紹介し  
た。

出品点数：244点  
入場者数：11,447人（令和4年3月19日～5月15日）

展覧会図録

『本城直季 (un) real utopia』  
執筆：飯沢耕太郎、藤森照信、ポール・スミス、武内厚子  
編集：朝日新聞社、井出幸亮  
発行：朝日新聞社

第47回 2022 JPS展  
2022 the 47th Exhibitions of the JPS

期間：令和4年5月21日（土）～5月29日（日）8日間  
会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本写真家協会  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
後援：文化庁、東京都

公益社団法人日本写真家協会（略称JPS）は全国に1,300名余り  
の会員を擁する職業写真家の団体である。本展は当協会創立の翌  
年1951年に「日本写真家協会 第1回展」を開催、76年に「JPS展」  
と名称を新たに、77年からは一般公募を開始した。91年から写  
真学生を対象とした「ヤングアイ」も開催。デジタル写真の広範な  
発展が続くなか、JPS展に対する関心も高まり、毎年全国からの多  
数の応募を記録している。写真展として高い評価を受け、現在では  
プロの写真家への登竜門となっている。

本年度は、340点の作品を展示し、おやこ写真教室や著作権セミ  
ナー等のイベントも開催した。

出品点数：340点（513枚）  
入場者数：2,937人

展覧会図録

『第47回2022JPS展図録』  
発行：公益社団法人日本写真家協会





## 岩合光昭写真展 PANTANAL

パンタナール 清流がつむぐ動物たちの大湿原

Iwago Mitsuaki: PANTANAL

期間：令和4年6月4日（土）～7月10日（日）32日間

会場：地下1階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

企画制作：株式会社クレヴィス

本展は、世界的に著名な動物写真家・岩合光昭が、南米大陸中央部に位置する世界最大級の熱帯湿地パンタナールで撮影取材した作品による、野生動物ドキュメンタリー写真展。2015年から3年半の期間に5回にわたる「パンタナール」撮影取材を執行した岩合は、ジャガーをはじめ、オオカワウソ、パラグアイカイマン、カピバラ、アメリカバク、オオアリクイなど、多種多様な野生動物たちの生態に迫り活写した。

出品点数：102点

入場者数：10,870人

### 展覧会図録

『PANTANAL』

編集・発行：株式会社クレヴィス



## 瞬間の記憶～創刊150周年～スポーツ報知 報道写真展

The Decisive Moments

—The Hochi Shimbun 150th Anniversary Photo Exhibition—

期間：令和4年7月16日（土）～7月31日（日）14日間

会場：地下1階展示室

主催：報知新聞社

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

後援：読売新聞社／日本テレビ放送網

野球、相撲、サッカー、ゴルフ、ボクシングからワールドカップ、箱根駅伝などスポーツにおける決定的な瞬間は、写真を通して、広く共有されてきた。本展は1872年（明治5年）に郵便報知として発刊した報知新聞社が創刊150年を迎えることを記念して、貴重な写真や記事のアーカイブデータを展示する記念写真展。写真に加え、紙面の復刻を行い、スポーツとエンターテインメントを通して、昭和、平成、令和の歴史を振り返る。

出品点数：151点

入場者数：6,623人



写真新世紀 30年の軌跡

写真ができること、写真でできたこと

The 30th Anniversary of the New Cosmos of Photography

What Photography Can Do; What Has Been Done by Photography

期間：令和4年10月16日(土)～11月13日(日) 25日間

会場：地下1階展示室

主催：キヤノン株式会社

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘・育成・支援を目的として1991年から2021年にかけて、公募展「写真新世紀」を行ってきた。これまでに実施した44回の公募から誕生した受賞者は1,126組。また、公募への応募者総数は35,550名に上る。現代写真家の登竜門として、写真界における役割は大きく、世界的に活躍する写真家を多数輩出した。審査員は、国内外の著名な写真家、映像作家、アーティスト、キュレーター、写真・美術評論家が起用され、写真の枠に囚われない新しい表現が発信されていった。

本年度は、30年間のこれまでの歩みを歴代受賞者の作品で振り返り、東京都写真美術館(恵比寿)とキヤノンギャラリーS(品川)の2会場で開催した。

出品点数：158点

入場者数：9,680人

星野道夫

悠久の時を旅する

Hoshino Michio:

The Eternal Journey

期間：令和4年11月19日(土)～令和5年1月22日(日) 52日間

会場：地下1階展示室

主催：クレヴィス

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協力：星野道夫事務所

後援：目黒区

アラスカで暮らし、大自然に生きる動物や人々と出会い愛した写真家・星野道夫。本展では、初めてシシマレフ村の村長に宛てて書いた手紙をはじめ、未完の作品群や26年ぶりに発見されたパノラマカメラなどの貴重な資料を展示。会期中には、星野直子氏による講演会や星野直子氏と大竹英洋氏による対談、また、星野道夫の作品に多大な影響を受けた音楽家・haruka nakamura氏による演奏会を開催した。

出品点数：173点(写真作品146点、資料展示27点)

入場者数：42,421人



プリピクテジャパンアワード Fire & Water  
Prix Pictet Japan Award Fire & Water

期間：令和4年12月17日（土）～令和5年1月22日（日）28日間  
会場：3階展示室

主催：プリピクテ  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

2008年にPrix Pictetにより設立された、写真とサステナビリティに関する世界有数の国際写真賞であるプリピクテは、世界各地を巡回する展覧会と同時に、プルニエ財団の支援により、日本を拠点とする写真家を対象にした「プリピクテジャパンアワード」を設けてきた。今回で3回目となる本アワードでは、「火と水」をテーマに、新進作家から中堅作家までの中からショートリストに選ばれた8名の写真家の作品を展示した。本年度のショートリストおよび賞の受賞者は4名の審査委員によって選出され、ショートリストは新井卓、岩根愛、岡田将、瀧本幹也、千賀健史、長沢慎一郎、中井菜央、水谷吉法（敬称略）、受賞者は岩根愛となった。「火と水」は4大元素のエレメントでもあり、私たちに生命をもたらすが、ときに恐ろしい破滅を引き起こす脅威にもなる。本展の展示作家による作品は、「火と水」を最も予測不可能な存在として提示し、これまでに起きた事柄を反映しているだけでなく、これから起こりうる未来のビジョンをも示した。

出品点数：119点  
入場者数：15,345人

APAアワード2023  
第51回公益社団法人日本広告写真家協会公募展  
The 51st Public Exhibition of Japan Advertising Photographers' Association

期間：令和5年2月25日（土）～3月12日（日）14日間  
会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本広告写真家協会（APA）  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
後援：経済産業省／文化庁  
協賛：OMデジタルソリューションズ株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／株式会社玄光社／ソニー株式会社／株式会社ニコンイメージングジャパン／富士フイルムイメージングシステムズ株式会社  
協力：エプソン販売株式会社／法人賛助各社

APAアワードは1961年から続く歴史ある写真の公募展で、多くの写真家を輩出してきた。

「広告作品部門」は実際に世の中に流通した広告写真を審査・選出し、「写真作品部門」はテーマに沿って自由な発想と写真表現で競い合う写真コンペティション。

今年度、広告作品部門は213作品の応募があり、62の作品が入賞入選に選ばれた。写真作品部門のテーマは「私の写真」。全国から1065作品、2417枚の応募があり、123の作品が入賞入選。テーマに着想を得たオリジナリティあふれる作品を展示した。

出品点数：125点  
入場者数：3,764人

展覧会図録

『年鑑 日本の広告写真2023』  
監修：公益社団法人日本広告写真家協会



## 土門拳の古寺巡礼

### Domon Ken: A Pilgrimage to Ancient Temple

期間：令和5年3月18日（土）～5月14日（日）12日間（令和5年3月31日までの開館日数）

会場：地下1階展示室

主催：株式会社クレヴィス

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協力：公益財団法人さかた文化財団 土門拳記念館

報道写真家として活躍していた土門拳は、1959年に脳出血の軽い発作で倒れ、その後遺症で35ミリカメラを自在に操作できなくなり、三脚に据え付けた大型カメラによる「古寺巡礼」の撮影に取り組むことを決意した。建築の細部や仏像の手や足、口元などをクローズアップで捉える独自の作品を掲載した『古寺巡礼』第一集を1963年に上梓。1975年、第五集刊行により完結。本展では、土門が選んだ、力強く個性的な「日本の美」を展覧した。

出品点数：124点

入場者数：3,070人（令和5年3月31日現在）

#### 展覧会図録

『土門拳の古寺巡礼』

編集・発行：株式会社クレヴィス



スクールプログラム

東京都写真美術館では、児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して豊かな体験学習ができるように、小学校、中学校、高等学校、大学および各種学校の授業や部活動、教職員研修等と連携したスクールプログラムを実施している。制作体験と作品鑑賞の両方を一度に体験できる当館のスクールプログラムは、表現と鑑賞の両面から、写真・映像の仕組みと楽しさを体験的により深く理解できる点が大きな特色となっている。

各学校が美術館訪問の課外活動を再開し始めた今年度は、回数、校数としてはほぼコロナ以前の実施規模を取り戻したと言えるだろう。一方、実施内容で言えば、以前と比べてクラス単位、学年単位での来館は減少し、代わりに少人数での利用が増加したこと、教員研修や職場体験、部活動など児童生徒の授業以外での来館、オンラインでの実施など多様な形での参加が増加したことが特徴として挙げられる。

実施回数：49回  
参加人数：969人

鑑賞体験プログラム

A. 対話型作品鑑賞

グループで一つの作品を鑑賞し、参加者それぞれが作品を見て気づいたことや感じたことを率直に話し合いながら見方を深めていく鑑賞方法。はじめにアイスブレイクとして当館オリジナルの「色と形と言葉のゲーム」を実施し、思ったことを自由に話すことや友達と考えが違うことの楽しさを体験し、その後に展示室での作品鑑賞を行う。お互いの発言を共有しつつ鑑賞を進めることで、一人では気づけなかった作品の魅力や多様な見方を知ることができるとともに、自ら能動的に鑑賞する体験がより深い学びと理解を生む。また、対話をしながら鑑賞することは、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力などさまざまな力を育成するきっかけにもなり、豊かな鑑賞体験とともに、充実した言語活動を能動的に行うことができる。



制作体験プログラム

B. 手作りアニメーション体験

おどろき盤（フェナキスティスコープ）とは、19世紀を起源とするアニメーション装置。円盤型の紙に絵や図形を少しずつ変化させながら12コマを描き、それを鏡に向かって回転させ、盤上のスリットを通して鏡を見ることで、描いた絵が動画として知覚されるという仕組みとなっている。

アナログな手描きの制作に加えて、今年度からは新しいデジタル教材「回転アニメーションWebアプリ マジカループ」を活用し、タブレット上での制作や手描きのおどろき盤をタブレットで撮影してデジタル動画化する内容を盛り込んだ。このプログラムではアニメーションの仕組みを楽しみながら体験的に学ぶことができる。どのようにしたら動いて見えるのかを観察し自ら考える能動的学習、自身で描くことによってアニメーション表現を行う体験的理解、完成作品を仲間と共有するコミュニケーションという3つの学びを楽しみながら行うことができる。



### C. 写真の制作体験ーデジタルネガフィルムを用いたモノクロ銀塩プリント

デジタルネガフィルムは、デジタル写真画像を透明な専用素材にインクジェットプリンターで出力して制作できるため、デジタル時代に適したネガフィルムとなっている。スクールプログラムでは児童・生徒が今日ではなかなか体験できない昔ながらの写真の現像・焼き付けが体験できるように、あらかじめ用意したデジタルネガフィルム（東京の名所風景）を用いて暗室にてモノクロ・プリント制作を行った。段階露光によるテストを行い、それぞれの好みの濃度、トーンになるようにプリントを制作した。



## 令和4年度 スクールプログラム実績

	年月日	来館時間	団体名	対象・学年	区分	人数	実施場所	プログラム内容
1	6月3日(金)	15:00-16:30	東邦大学 看護学科	大学生	授業等	21	当館スタジオ、展示室	対話型作品鑑賞についてのレクチャー、スライドによる対話型作品鑑賞、展覧会自由鑑賞
2	6月8日(水)	14:30-16:00	小金井市版画工作研究会	教員	教員研修	11	オンライン	マジカループ
3	6月15日(水)	15:00-16:45	千代田区版画工作研究会	教員	教員研修	8	当館スタジオ	マジカループ、展覧会自由鑑賞
4	6月23日(木)	14:40-16:00	日本大学芸術学部 写真学科	大学生	授業等	11	当館学習室	「アヴァンギャルド勃興」展示解説、自由鑑賞
5	6月24日(金)	14:40-16:00	日本大学芸術学部 写真学科	大学生	授業等	15	当館スタジオ、展示室	「アヴァンギャルド勃興」展示解説、自由鑑賞
6	6月29日(水)	14:40-16:00	日本大学芸術学部 写真学科	大学生	授業等	21	当館スタジオ、展示室	「アヴァンギャルド勃興」展示解説、自由鑑賞
7	7月5日(火)	10:00-15:00	渋谷区立鉢山中学校	2年生	職場体験	2	館内各所	美術館の仕事体験
8	7月6日(水)	10:00-15:00	渋谷区立鉢山中学校	2年生	職場体験	2	館内各所	美術館の仕事体験
9	7月7日(木)	10:00-15:00	渋谷区立鉢山中学校	2年生	職場体験	2	館内各所	美術館の仕事体験
10	7月9日(土)	10:00-12:00	清泉女子大学	大学生	授業等	8	当館スタジオ、展示室	スライドによる対話型作品鑑賞、展覧会自由鑑賞
11	7月29日(金)	14:00-16:00	北区版画工作研究会	図工教員	教員研修	16	北区立田端小学校 (出前授業)	おどろき盤、マジカループ
12	8月5日(金)	14:00-15:30	東洋女子高等学校	2年生	授業	39	オンライン	スライドによる対話型作品鑑賞
13	8月24日(水)	13:30-15:30	千代田区版画工作研究会	教員	教員研修	7	当館スタジオ、展示室	青写真、展覧会自由鑑賞
14	8月25日(木)	11:00-12:30	東洋女子高等学校	2年生	授業	31	オンライン	スライドによる対話型作品鑑賞
15	8月25日(木)	14:00-15:30	東洋女子高等学校	2年生	授業	40	オンライン	スライドによる対話型作品鑑賞
16	8月26日(金)	14:00-15:30	東洋女子高等学校	2年生	授業	40	オンライン	スライドによる対話型作品鑑賞
17	9月13日(火)	13:40-15:15	小金井市立第四小学校	4年生	授業	31	オンライン	おどろき盤、マジカループ
18	9月14日(水)	10:45-12:20	小金井市立第四小学校	4年生	授業	32	オンライン	おどろき盤、マジカループ
19	9月16日(金)	10:15-12:15	目黒区立田道小学校	6年生	授業	28	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、展覧会自由鑑賞
20	9月22日(木)	13:15-14:50	渋谷区立長谷戸小学校	6年生	授業	20	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、展覧会自由鑑賞
21	9月26日(月)	8:45-10:20	小金井市立第四小学校	4年生	授業	33	オンライン	おどろき盤、マジカループ
22	9月26日(月)	15:30-16:45	東京都版画工作研究会 理事会	図工教員	教員会議	60	小金井第四小学校体育館	マジカループの紹介
23	9月27日(火)	10:00-15:00	品川区立八潮学園	中学2年生	職場体験	2	館内各所	美術館の仕事体験
24	9月28日(水)	10:00-15:00	品川区立八潮学園	中学2年生	職場体験	2	館内各所	美術館の仕事体験
25	9月28日(水)	14:00-16:00	東洋女子高等学校	2年生	授業	17	当館スタジオ、展示室	スライドによる対話型作品鑑賞
26	9月30日(金)	10:15-12:15	目黒区立田道小学校	6年生	授業	28	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、展覧会自由鑑賞
27	10月8日(土)	14:45-16:30	都立豊多摩高等学校 写真部	1-2年生	部活動	17	当館スタジオ	スライドによる対話型作品鑑賞、展覧会自由鑑賞
28	10月13日(木)	10:45-12:20	小金井市立第四小学校	5年生	授業	34	同校(出前授業)	スライドによる対話型作品鑑賞
29	10月20日(木)	10:45-12:20	小金井市立第四小学校	5年生	授業	34	同校(出前授業)	スライドによる対話型作品鑑賞
30	10月31日(月)	10:45-12:20	小金井市立第四小学校	5年生	授業	35	同校(出前授業)	スライドによる対話型作品鑑賞
31	11月9日(水)	14:30-16:30	府中市教育研究 (図工・美術部)	図工教員	教員研修	17	当館スタジオ、展示室	色と形と言葉のゲーム、マジカループ、展覧会自由鑑賞
32	11月15日(火)	11:00-12:35	千代田区立番町小学校	5年生	図工	33	同校(出前授業)	おどろき盤、マジカループ
33	11月16日(水)	10:00-15:00	都立深沢高等学校	1年生	職場体験	2	館内各所	美術館の仕事体験
34	11月17日(木)	10:00-15:00	都立深沢高等学校	1年生	職場体験	2	館内各所	美術館の仕事体験
35	11月18日(金)	10:00-15:00	都立深沢高等学校	1年生	職場体験	2	館内各所	美術館の仕事体験
36	11月23日(水・祝)	14:00-16:00	都立志村学園 高等部	1-3年生	授業	10	当館スタジオ、展示室	おどろき盤、展覧会自由鑑賞
37	11月24日(木)	10:00-15:00	品川区立伊藤学園	中学2年生	職場体験	1	館内各所	美術館の仕事体験
38	11月25日(金)	10:00-15:00	品川区立伊藤学園	中学2年生	職場体験	1	館内各所	美術館の仕事体験
39	12月2日(金)	10:00-12:00	港区立白金の丘小学校	5年生	図工	35	当館スタジオ、展示室	ワークシートによる展覧会自由鑑賞
40	12月6日(火)	10:00-12:00	港区立白金の丘小学校	5年生	図工	63	当館スタジオ、展示室	ワークシートによる展覧会自由鑑賞
41	12月7日(水)	11:00-14:15	千代田区立番町小学校	5年生	研究授業	30	同校(出前授業)	おどろき盤、マジカループ
42	12月7日(水)	14:30-16:30	文京区版画工作研究会	図工教員	教員研修	18	当館スタジオ、展示室	対話型作品鑑賞についてのレクチャー、スライドによる対話型作品鑑賞、展覧会自由鑑賞
43	12月13日(火)	10:00-12:30	筑波大付属駒場中学校	3年生	授業	3	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、スライドによる対話型作品鑑賞、展覧会自由鑑賞
44	12月23日(金)	16:00-18:00	大妻高等学校 写真部	1-2年生	部活動	12	当館スタジオ、展示室	モノクロ銀塩プリント、青写真、展覧会自由鑑賞
45	1月18日(水)	14:15-16:15	北区中学校美術部会	美術教員	教員研修	10	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、スライドによる対話型作品鑑賞、展覧会自由鑑賞
46	1月21日(土)	14:45-16:30	都立豊多摩高等学校 写真部	1-2年生	部活動	9	当館スタジオ、展示室	モノクロ銀塩プリント、青写真、展覧会自由鑑賞
47	2月24日(金)	10:50-14:10	都立田園調布特別支援学校 高等部	3年生	美術	30	同校(出前授業)	おどろき盤、マジカループ
48	2月28日(火)	10:00-12:00	横浜デザイン学院日本語学校	専門学校生	授業等	22	当館スタジオ、展示室	スライドによる対話型作品鑑賞、展覧会自由鑑賞
49	3月1日(水)	13:00-14:30	旭出学園(特別支援学校) 高等部	1-3年生	授業等	22	同校(出前授業)	おどろき盤、マジカループ
						合計49回	969人	

パブリックプログラム事業は、体験的なプログラムによって、参加者の写真・映像への理解を促進し、生きる力やコミュニケーション力を高めるきっかけを提供している。様々な世代、多様な関心を持つ人々が美術館を楽しみ、学ぶことができる場を創出することもまた事業の大きな目的のひとつである。令和4年度は「オープンワークショップ」や「モノクロ銀塩プリントワークショップ」などの定番プログラムを中心に、徐々に対面開催の機会も増えてきた。引き続きオンラインでの事業実施も継続して行うとともに、今年度の新規事業として写真・映像に関心のある中学生・高校生を対象とする平日放課後のプログラム「TOP写真部」を開始した。

実施回数 28回

参加人数 413人

#### ●オープンワークショップ：手作りアニメーション体験

タブレットを使って東京都写真美術館オリジナルのデジタル教材「マジカループ」でアニメーションを制作したり、ペンで絵や図形を描いて「おどろき盤\*」を作るプログラム。子供から大人までが一緒に、楽しみながらアニメーションの基本を学ぶことができる。事前申込不要で開催時間内に自由に参加してもらおうオープンワークショップとして開催した。

\*おどろき盤（フェナキスティスコープ）は、19世紀を起源とする原始的なアニメーション装置。円盤状の紙に絵や図形を少しずつ変化させながら描き、それを鏡に向かって回転させて、盤上のスリットを通して鏡に映る円盤を見ると、描いた絵が動画として知覚されるという仕組みとなっている。



#### ●オープンワークショップ：日光や紫外線で焼く「青写真」

今では失われつつある「写真を焼きつける」アナログ感覚を存分に楽しむことのできるプログラム。

青写真（サイアノタイプ）は19世紀に発明された写真技法。太陽の光（紫外線）で写真を焼きつける伝統的な制作方法で、その名の通り深い青色が特徴となっている。このワークショップでは、太陽の光の下で色々なものの影や形を、当館自家製の印画紙に写し取ったり、人工的に紫外線の光をあてて「青写真」を制作した。また、お茶やコーヒーに含まれるタンニンなどの成分を用いて写真の色調整を行うプロセスも体験してもらった。小学生の夏休み自由研究に適した内容として、7月下旬の週末開催となり、多くの参加者があった。事前申込不要、当日時間内で自由に参加可能なオープンワークショップとして開催した。



●「アヴァンガルド勃興」展関連企画：「フォトグラム」をつくる  
パブリックプログラム事業では「写真と映像の探究的プログラム」として、開催中の展覧会に関連したワークショップを開催している。今年度は「アヴァンガルド勃興」展の出品作品で用いられる写真技法「フォトグラム」を体験するワークショップを実施した。



#### ●モノクロ銀塩プリントワークショップ

暗室施設をもつ当館の特色を生かして、1999年以来、不定期ではあるが継続して開催してきた初めての体験に写真現像を体験できる制作系ワークショップ。デジタル世代のための写真現像体験として格好のプログラムとなっている。昨年度に続き、感染対策をとって参加人数を制限する形での実施した。参加者が持参したネガフィルムから、それぞれがイメージする写真の仕上がりを目指して、当館スタッフのアドバイスによりモノクロ・プリントを制作した。



#### ●写真のプレゼンテーションを学ぶ（オンライン開催）

このプログラムでは「撮ることを楽しむ写真から人に見せること、言葉にすることへ」をテーマとして、参加者が自身の撮影した写真についてプレゼンテーションを行い、ゲスト講師と当館学芸員がナビゲーターとなり、参加者を交えた言葉のコミュニケーションを行うことで、「伝えること」について理解を深めていく。参加者にとって、これまで気が付かなかった写真との関わり方を広げるきっかけとなることを目指した。



#### ●TOP写真部

写真・映像に関心のある中学生・高校生を対象とする平日放課後のプログラム（木曜、金曜の夕方、不定期開催）。このプログラムは主に高校生をターゲットとして、写真・映像を通して、将来のキャリア・デザインを考えるヒントや10代の居場所づくりを目的とした今年度の新規事業である。今年は「デジタル・ネイティブのためのアナログ体験」をテーマに、主にモノクロフィルムでの撮影から現像までの制作活動を行った。具体的にはフィルムカメラ+モノクロフィルムでの撮影（ステップ1）、モノクロフィルム現像（ステップ2）、モノクロ銀塩プリント（ステップ3）の3段階での活動を行った。ま



たサブ活動として4×5インチ大判カメラ体験、各自が撮影した作品（デジタル写真）のプレゼンテーションも実施した。平日の高校生が参加可能な時間を一律に設定しにくいことから、事前申込の上で、開催日の実施時間中にそれぞれが好きな時間帯で活動できる形式をとった。



実施日：令和4年6月23日（木）、6月24日（金）、7月21日（木）、7月22日（金）、10月27日（木）、10月28日（金）、11月24日（木）、11月25日（金）、令和5年1月19日（木）、1月20日（金）計10日間実施。

実施時間：16:00-19:00

形式：事前申込、対面開催、実施時間内に随時参加可能

対象：中学生・高校生

参加費：無料

参加者：のべ55名

### 令和4年度 パブリックプログラム実績

プログラム名	講師・スタッフ	開催日	参加人数	参加費	備考
1 TOP写真部 6月の活動	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年6月23日（木）	12	無料	中学生、高校生
2 TOP写真部 6月の活動	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年6月24日（金）	不成立	無料	中学生、高校生
3 オープンワークショップ （手作りアニメーション体験）	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年6月25日（土）	19	無料	一般
4 オープンワークショップ （手作りアニメーション体験）	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年6月26日（日）	29	無料	一般
5 「アヴァンガルド勃興」展関連企画： 「フォトグラム」をつくる【小中学生コース】	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年7月3日（日）	5	1,000円	小中学生
6 「アヴァンガルド勃興」展関連企画： 「フォトグラム」をつくる【一般コース】	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年7月3日（日）	11	2,000円	一般
7 写真のプレゼンテーションを学ぶ （オンライン開催）	菅沼比呂志（インディペンデント・キュレーター）、小島ひろみ（当館学芸員）	令和4年7月15日（金）	5	無料	一般
8 モノクロ銀塩プリントワークショップ	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年7月16日（土）	6	一般4,000円／ 学生3,000円／ 中高生1,500円	一般
9 モノクロ銀塩プリントワークショップ	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年7月17日（日）	6	一般4,000円／ 学生3,000円／ 中高生1,500円	一般
10 TOP写真部 7月の活動	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年7月21日（木）	8	無料	中学生、高校生
11 TOP写真部 7月の活動	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年7月22日（金）	2	無料	中学生、高校生
12 オープンワークショップ 日光や紫外線で焼く「青写真」をつくろう	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年7月23日（土）	77	無料	一般
13 オープンワークショップ 日光や紫外線で焼く「青写真」をつくろう	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年7月24日（日）	158	無料	一般
14 親子プログラム 「じっくり見たり、つくったりしよう!」	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年8月6日（土）	6	1組 800円	小学生とその保護者
15 親子プログラム 「じっくり見たり、つくったりしよう!」	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年8月7日（日）	2	1組 800円	小学生とその保護者
16 写真のプレゼンテーションを学ぶ （オンライン開催）	菅沼比呂志（インディペンデント・キュレーター）、小島ひろみ（当館学芸員）	令和4年8月10日（水）	4	無料	一般
17 オープンワークショップ （手作りアニメーション体験）	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年10月22日（土）	12	無料	一般
18 オープンワークショップ （手作りアニメーション体験）	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年10月23日（日）	3	無料	一般
19 TOP写真部 10月の活動	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年10月27日（木）	3	無料	中学生、高校生
20 TOP写真部 10月の活動	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年10月28日（金）	2	無料	中学生、高校生
21 TOP写真部 11月の活動	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年11月24日（木）	6	無料	中学生、高校生
22 TOP写真部 11月の活動	教育普及プログラム・スタッフ	令和4年11月25日（金）	4	無料	中学生、高校生
23 モノクロ銀塩プリントワークショップ	教育普及プログラム・スタッフ	令和5年1月12日（木）	4	一般4,000円／ 学生3,000円／ 中高生1,500円	一般
24 モノクロ銀塩プリントワークショップ	教育普及プログラム・スタッフ	令和5年1月13日（金）	4	一般4,000円／ 学生3,000円／ 中高生1,500円	一般
25 TOP写真部 1月の活動	教育普及プログラム・スタッフ	令和5年1月19日（木）	8	無料	中学生、高校生
26 TOP写真部 1月の活動	教育普及プログラム・スタッフ	令和5年1月20日（金）	10	無料	中学生、高校生
27 写真のプレゼンテーションを学ぶ （オンライン開催）	菅沼比呂志（インディペンデント・キュレーター）、小島ひろみ（当館学芸員）	令和5年3月9日（木）	3	無料	一般
28 写真のプレゼンテーションを学ぶ （オンライン開催）	菅沼比呂志（インディペンデント・キュレーター）、小島ひろみ（当館学芸員）	令和5年3月10日（金）	4	無料	一般
合計 28回 413人					

## 教育普及事業 社会包摂事業

東京都写真美術館では、以前より手話通訳付きのギャラリートークや、視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップなど、障害の有無に関わらず、あらゆる人が参加できるプログラムを実施している。今年度は、より一層の社会包摂事業を拡充すべく、新たな事業、リサーチを実施した。

実施回数：29回

参加人数：214人

### クリエイティブ・ウェルビーイング・トークショー

#### シニア・子供の居場所づくり事業

##### シニアプログラム

都内の社会福祉施設等と連携し、写真と映像の教育プログラムのノウハウを活用し、高齢者の介護予防の観点から、アクティブなシニアライフを支援する事業の実施に向けてリサーチを行った。今年度は目黒区と杉並区の施設や機関と連携構築を行い、出前による制作プログラム（手作りアニメーション体験：おどろき盤）を実施した。



##### 子供の居場所づくり

近隣の社会福祉施設や子ども食堂を主宰するNPO等と協働して、放課後の居場所の見つからない子供達などを対象とした活動の「場」づくりを行う事業の実施に向けてリサーチを行った。地域の子供達に写真・映像に親しんでもらい、身近に利用できる安全な場所を提供する。主に制作系プログラムによる「ものづくり」体験と展覧会鑑賞を行い、現場のニーズをリサーチした。



##### 託児サービス

子育て世代の来館者に美術館をゆっくり楽しんでもらえることを目的とする託児サービス。展覧会出品作家によるアーティストトークなど、大人向けの展覧会関連イベント開催の日程にあわせて実施した。

#### 合理的配慮研究

ボランティア研修会（オンライン開催）

テーマ：「社会包摂」って何だろう？ あなたが作る「誰もが楽しめる写真美術館」

講師：安曾潤子（インクルーシブ・ミュージアム代表）

対象：東京都写真美術館ボランティア 参加人数：16人

日時：2023年3月4日（日） 13:30-16:30

### インクルーシブ・プログラム、バリアフリー・プログラム

#### インクルーシブ鑑賞ワークショップ 見るときどき見えな い、のち話す、しだいに見える

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、会話を交わしながら一緒に写真作品を鑑賞するプログラム。目の見える人、見えない人の2人のナビゲーターとともに、見えていることや感じていることを言葉にして伝え合いながらオンラインで作品を鑑賞した。

#### 手話通訳付き展覧会トーク

ギャラリートーク休止中の代替として、手話を母語とする人の情報支援として実施した。手話通訳者をまじえ、担当学芸員が展覧会のテーマや展示作品の見どころをわかりやすく解説するレクチャーをロビーで行った後、参加者に展示を自由に鑑賞してもらうプログラム。



#### インクルーシブ・プログラム ボランティアによるオンラ イン対話型鑑賞会

当館ボランティアのナビゲートにより、参加者全員で対話を交えながら当館の収蔵作品をオンラインで鑑賞するプログラム。それぞれが作品を見て感じたことを率直に話し、お互いの発言を共有しながら見ていくことで、より深い鑑賞を体験してもらうことを目的としている。

#### 手話ナビゲーターによる館内案内動画作成

手話を母語とする人の情報支援として館内を案内する動画を作成し、当館の公式YouTubeチャンネルで公開した。

#### やさしい図書室案内の作成

図書室の利用方法を解説するパンフレットを作成し、館内配布した。

令和4年度 社会包摂事業 実績 (クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー、インクルーシブ・プログラム、バリアフリー・プログラム)

事業名	講師・スタッフ	対象・団体名・会の名称等	開催日	参加人数	会場	プログラム内容
1 シニアプログラム	教育普及プログラム・スタッフ	めぐろボランティア ミニデイサービス・ふれあいサロン連絡会	4月15日(金)	26	中目黒スクエア会議室(めぐろボランティアセンター)	美術館紹介、シニアプログラム紹介(おどろき盤)
2 手話通訳付き展覧会トーク	鈴木佳子(当館学芸員)、瀬戸口裕子、山崎薫(手話通訳者)	手話を必要とする方	5月12日(木)	3	東京都写真美術館2階ロビーおよび展示室	「光のメディア」展
3 シニアプログラム	教育普及プログラム・スタッフ	碑ミニデイ(目黒区ミニデイサービス団体)	5月25日(水)	13	目黒区碑住区センター2階会議室	おどろき盤 制作
4 子供の居場所づくり	教育普及プログラム・スタッフ	目黒区田道住区住民会議	6月19日(日)	38	東京都写真美術館スタジオ 他	美術館紹介、展覧会鑑賞
5 インクルーシブ鑑賞ワークショップ 見るときき見えない、のち話す、しだいに見える 夏コース「アヴァンガルド勃興」展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	どなたでも	7月10日(日)	7	オンライン	「アヴァンガルド勃興」展
6 手話通訳付き展覧会トーク	藤村里美(当館学芸員)、瀬戸口裕子、長谷川美紀(手話通訳者)	手話を必要とする方	7月14日(木)	3	東京都写真美術館2階ロビーおよび展示室	「アヴァンガルド勃興」展
7 子供の居場所づくり	教育普及プログラム・スタッフ	子ども食堂(主催:NPO法人こどもば)	7月26日(火)	10	上目黒住区センター調理室	おどろき盤 制作
8 インクルーシブ鑑賞ワークショップ 見るときき見えない、のち話す、しだいに見える(アヴァンガルド勃興展)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	どなたでも	7月30日(土)	6	オンライン	「アヴァンガルド勃興」展
9 子供の居場所づくり	教育普及プログラム・スタッフ	子ども食堂(主催:NPO法人こどもば)	8月2日(火)	10	中央町社会教育館第6研修室(美術工作室)	青写真 制作
10 手話通訳付き展覧会トーク	藤村里美(当館学芸員)、瀬戸口裕子、長谷川美紀(手話通訳者)	手話を必要とする方	8月4日(木)	5	東京都写真美術館2階ロビーおよび展示室	「アヴァンガルド勃興」展
11 子供の居場所づくり	教育普及プログラム・スタッフ	目黒区田道住区住民会議	8月9日(火)	4	東京都写真美術館スタジオ 他	おどろき盤 制作 サードプレイス活動
12 手話通訳付き展覧会トーク	浜崎加織(当館学芸員)、長谷川美紀、山崎薫(手話通訳者)	手話を必要とする方	8月25日(木)	9	東京都写真美術館2階ロビーおよび展示室	「メメント・モリと写真」展
13 手話通訳付き展覧会トーク	多田かおり(当館学芸員)、瀬戸口裕子、山崎薫(手話通訳者)	手話を必要とする方	9月30日(金)	2	東京都写真美術館2階ロビーおよび展示室	「イメージ・メイキングを分解する」展
14 託児サービス (子供の居場所づくり)	運営:株式会社マザーズ	託児サービスを必要とする方	10月1日(土)	不成立	東京都写真美術館スタジオ	託児サービス
15 託児サービス (子供の居場所づくり)	運営:株式会社マザーズ	託児サービスを必要とする方	10月9日(土)	不成立	東京都写真美術館スタジオ	託児サービス
16 手話通訳付き展覧会トーク	石田哲朗(当館学芸員)、瀬戸口裕子、山崎薫(手話通訳者)	手話を必要とする方	10月28日(金)	7	東京都写真美術館2階ロビーおよび展示室	「野口里佳」展
17 子供の居場所づくり	教育普及プログラム・スタッフ	景丘の家 アートスクール	11月3日(木・祝)	8	東京都写真美術館スタジオ 他	展覧会自由鑑賞 他
18 手話通訳付き展覧会トーク	遠藤みゆき(当館学芸員)、長谷川美紀、山崎薫(手話通訳者)	手話を必要とする方	11月17日(木)	4	東京都写真美術館2階ロビーおよび展示室	「日本の新進作家」展
19 託児サービス (子供の居場所づくり)	運営:株式会社マザーズ	託児サービスを必要とする方	11月19日(土)	不成立	東京都写真美術館スタジオ	託児サービス
20 手話通訳付き展覧会トーク	遠藤みゆき(当館学芸員)、長谷川美紀、山崎薫(手話通訳者)	手話を必要とする方	11月25日(金)	5	東京都写真美術館2階ロビーおよび展示室	「日本の新進作家」展
21 手話通訳付き展覧会トーク	石田哲朗(当館学芸員)、瀬戸口裕子、山崎薫(手話通訳者)	手話を必要とする方	12月9日(金)	2	東京都写真美術館2階ロビーおよび展示室	「野口里佳」展
22 シニアプログラム	教育普及プログラム・スタッフ	目黒区ボランティア担当者連絡会	12月9日(金)	10	中目黒スクエア会議室(めぐろボランティアセンター)	美術館紹介、シニアプログラム紹介(おどろき盤)
23 インクルーシブ鑑賞ワークショップ 見るときき見えない、のち話す、しだいに見える 冬コース「野口里佳 不思議な力」展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	どなたでも	12月11日(日)	7	オンライン	「野口里佳」展
24 インクルーシブ鑑賞ワークショップ 見るときき見えない、のち話す、しだいに見える冬コース「野口里佳 不思議な力」展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	どなたでも	1月14日(土)	8	オンライン	「野口里佳」展
25 託児サービス (子供の居場所づくり)	運営:株式会社マザーズ	託児サービスを必要とする方	12月16日(金)	1	東京都写真美術館スタジオ	託児サービス
26 子供の居場所づくり	教育普及プログラム・スタッフ	目黒区民センター児童館	1月15日(日)	3	東京都写真美術館スタジオ	美術館紹介 フォトグラム制作
27 ボランティアによるオンライン対話型鑑賞会	東京都写真美術館ボランティア	どなたでも	1月17日(火)	8	オンライン	鑑賞プログラム
28 ボランティアによるオンライン対話型鑑賞会	東京都写真美術館ボランティア	どなたでも	1月22日(日)	5	オンライン	鑑賞プログラム
29 シニアプログラム	教育普及プログラム・スタッフ	杉並区ゆうゆう四宮館	2月13日(月)	10	杉並区ゆうゆう四宮館	おどろき盤 制作
合計 29回 214人						

鑑賞を深める手助けと同時に、多様性の理解や社会課題の解決に繋がるオリジナル教材の開発や、写真の原理を楽しみながら理解する動画の制作など、教育普及プログラムを実施するなかで生まれた発想をもとに、当館独自の取り組みを行った。

**【教材開発】**

対話による鑑賞を促進するための教材と、アニメーション制作の教材を開発し、活用の促進を行った。これらの教材は、令和4年7月3日(日)～7月7日(木)に開催された「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー だれもが文化でつながる国際会議」(主催:東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団)においてブース展示を行い、またボランティアスタッフによるデモンストレーションを行った。

**「色と形と言葉のゲーム」**

内容物:

- ① 色と形のカード 12色、21種類
- ② 言葉のカード 80種類
- ③ あそびかたガイド 1冊

価格4,565円

令和4年度 販売数 165個



**「回転アニメーションWebアプリ マジカループ」**

<https://magicaloop.topmuseum.jp/>

「GIGAスクール構想」に基づいて児童生徒一人につき一台の端末環境が整いつつある現代のICT教育に対応して、教育普及プログラムでは令和3年度にアニメーションを楽しむ学ぶためのデジタル教材「回転アニメーションWebアプリ マジカループ」を開発した。令和4年度においては、この教材を用いたスクールプログラムを進めるとともに、アプリの機能充実化業務を進めた。

「マジカループ」一般公開 令和4年6月21日(火)

令和4年度「マジカループ」活用実績

利用者数 15,540人

平均エンゲージメント時間 20分27秒

(令和4年6月21日～令和5年3月17日現在)

※Googleアナリティクスによる分析

令和4年度スクールプログラムでの利用実績:

小学校、特別支援学校、教員研修等 12件 参加者:335名

令和4年度パブリックプログラム等での利用実績:

ワークショップ、シニアプログラム等 8件 参加者:176名

2022年度「アジアデジタルアート大賞FUKUOKA」一般カテゴリー／エンターテインメント(産業応用)部門 入賞

「アジアデジタルアート大賞FUKUOKA受賞展」

会場:福岡市美術館

会期:令和4年3月8日(水)～3月12日(日)



**【動画制作】**

制作や鑑賞に関する動画を制作し、当館の公式YouTubeチャンネル上で公開した。

教育普及プログラムによるオリジナル動画「ネガぞう」全7本(令和3年度制作 公開中)

「色と形と言葉のゲーム」全3本(令和3年度制作 公開中)

「マジカループを使ってみよう」全3本(令和4年度制作 公開中)



## 東京都写真美術館 教育普及ボランティア

今年度はコロナ禍での教育普及活動も3年目を迎えた。各プログラムの参加人数を制限し、ソーシャル・ディスタンスや感染対策を十分にとった上での対面開催をはじめ、Zoomを活用したオンライン開催、各学校への出前授業といったアウトリーチ活動といったように、複数の活動形式を継続している。以前よりも活動の機会が限られているとはいえ、ボランティアの活動の場もまた、それに応じて美術館内、訪問先の学校、Zoomでの仮想空間といった広がりを見せている。制作系の活動は引き続き継続され、ボランティアによる対話型鑑賞会はオンラインにおける新たな展開もしている。

また、令和4年度も新規ボランティアの募集を行い、12月より新たなボランティアメンバーが加わった。ボランティア全員が各プログラムで円滑かつ自主的に活動できるよう、例年通り制作および鑑賞に関する新規ボランティア基礎研修を行った。社会包摂の基礎研修や、外部講師を招いた「インクルーシブ・ミュージアム」についての研修などを開催し多様なコミュニケーションのあり方の理解向上に努めた。そのほか、恵比寿映像祭の教育普及プログラムとしてボランティアが主体となって運営するオープンワークショップの実施や、「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー だれもが文化でつながる国際会議」（主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団）でのブース展示に置いて当館が開発した教材のデモンストレーションを行うなど、多岐にわたって活動した。

### 1 登録者数

令和3年度からの更新登録者：72名（途中休止者2名：数に含まず）  
新規登録者：13名

### 2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数 70回

1ヶ月平均 5.83回

のべ 320人

（ただしボランティア研修会をのぞく）

年間一人あたり 3.76回

(1) パブリックプログラム活動 18回

(2) スクールプログラム活動 34回

(3) クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー 15回

(4) 恵比寿映像祭での活動 3回

### 3 研修会・連絡会

(1) ボランティア研修会 8回 のべ参加者数 108人

令和4年6月18日（土）対話型鑑賞① 講師：当館スタッフ

令和4年7月31日（日）対話型鑑賞② 講師：当館スタッフ

令和4年11月19日（木）新規ボランティア研修会 第1回 Aチーム 講師：当館スタッフ

令和4年11月22日（火）新規ボランティア研修会 第1回 Bチーム 講師：当館スタッフ

令和4年11月27日（日）新規ボランティア研修会 第2回 講

師：当館スタッフ

令和4年12月10日（土）「包摂」基本研修 講師：当館スタッフ

令和5年3月4日（土）「社会包摂ってなんだろう？あなたが作る『誰もが楽しめる写真美術館』」講師：安曾潤子氏（インクルーシブ・ミュージアム代表）

(2) ボランティア連絡会（オンライン）3回 のべ参加者数 103人

令和4年6月5日（日）、12月10日（土）、令和5年3月4日（土）

## 博物館実習（学芸員実習）

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の一つとされており、登録博物館または博物館相当施設での実習により修得するものとされる。当館の博物館実習（学芸員実習）は大学生を対象に、将来的な学芸員の養成や美術館の仕事への意識啓発を目的として、学芸員を中心とした各部署の業務を体験的に研修してもらう機会である。令和4年度は全日程10日間のうち8日間を対面形式、2日間をオンライン形式で実施した。教育普及プログラム（制作・鑑賞・社会包摂）、展覧会企画、作品保存などの講義などを行い、同時に課題を提示し、まとめとしての課題発表とディスカッションを行った。

受入日程：令和4年8月17日（水）～9月2日（金）のうち10日間

受入人数：8名

受入大学：青山学院大学、学習院大学、京都芸術大学、筑波大学、東京工芸大学、武蔵大学、武蔵野美術大学、明治大学



**教育普及事業  
講演会等**

展示会の理解を深めるためのアーティストトーク等は、ソーシャルディスタンスを考慮し1階ホールや2階ロビーなどで安全に実施するほか、状況に応じてオンラインでも配信した。

**【収蔵展・自主企画展】**

展示会・事業名	部門	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数	
TOPコレクション 光のメディア	クローージングトーク・ 対談		令和4年6月4日(土)	糸井 潤 (出品作家)、今井 朋 (La Pagode キュレーター)	58	
TOPコレクション メント・モリと写真	落語	メント・モリと落語	令和4年8月12日(金)	春風亭柳枝(「死神」ほか一席)、柳亭左ん坊(前座)	127	
イメージ・メイキング を分解する	作家とゲストによるト ーク		令和4年8月11日(木・祝)	タマシュ・ヴァリツキー(出品作家)、白井雅人(上武大学教 授)	40	
			令和4年9月23日(金・祝)	木本圭子(出品作家)、木原民雄(メディアアーティスト/メ ディアデザイン研究者)、四方幸子(キュレーター/批評家)	24	
見るは触れる 日本の新進作家 vol.19	アーティスト・トーク		令和4年9月17日(土)	岩井 優(出品作家)	26	
			令和4年10月1日(土)	澤田 華(出品作家)	71	
			令和4年10月9日(日)	永田康祐(出品作家)	59	
			令和4年10月29日(土)	水木 壘(出品作家)	17	
			令和4年11月19日(土)	多和田有希(出品作家)	37	
野口里佳 不思議な力	アーティスト・トーク		令和4年12月16日(金)	野口里佳(出品作家)	59	
恵比寿映像祭2023 テクノロジー?	シンポジウム	[日仏会館共催企画] テクノロジー?—日本と フランスのメディア・アート	令和5年2月16日(木)	[パネリスト] 畠中実(NTTインターコミュニケーション・セン ター [ICC] 主任学芸員)サンソン・シルヴァン(フランス大 使館 文化担当官、アンスティチュ・フランセ日本 芸術部門 統括マネジャー)[モデレーター] 藤原邦一(日仏会館 学 術・文化事業委員会委員)藤村里美(恵比寿映像祭キュレ ーター、当館学芸員)	47	
		コミッション・プロジェクト 一委嘱制作と映 像作品の可能性	令和5年2月17日(金)	[パネリスト] 沖啓介(メディア・アーティスト、東京造形大 学特任教授)斎藤綾子(映画研究者、明治学院大学教授) レオナルド・バルトロメウス(山口情報芸術センター [YCAM] /Gudskul Ekosistem キュレーター)メー・アーダードン・イン カワニト(映画・メディア研究者、キュレーター、ウェストミ ンスター大学教授)[モデレーター] 田坂博子(恵比寿映像 祭キュレーター・当館学芸員)	99	
	トークセッション	環を成す/球を成す—《FORMING SPHERES》[YEBIZO MEETS 地域連携: オフサイト展示]	令和5年2月3日(金)	[スピーカー] 野老朝雄(美術家)平本知樹(空間デザイナー、 建築家)[モデレーター] 関昭郎(本プロジェクトキュレーター、 当館学芸員)	59	
		カメラの自動化による創造のパラダイムシフ ト—オートメイテッド・フォトグラフィを参 照点として[YEBIZO MEETS 地域連携: Vitality.Swissコラボレーション展示]	令和5年2月5日(日)	[スピーカー] クレマン・ランブレ(ヴィジュアルアーティスト、 ECALアーティスト補佐)小山泰介(写真家、TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH PROJECT代表)齋藤精一 (パノラマティクス主宰、作家、クリエイティブディレクター、 Vitality.Swissプログラムアンバサダー)四方幸子(キュレ ーター、批評家)[モデレーター] ジョナス・ブルヴァ(在日スイ ス大使館 広報・文化部長)	84	
		教育普及プログラム	インクルーシブ・プログラム 恵比寿映像祭 2023について、みんなで話そう!(手話通訳 付/オンラインプログラム/事前申込制)	令和5年2月9日(木)	恵比寿映像祭スタッフ、手話通訳者(瀬戸口裕子、長谷川 美紀)	3
	コミッション・プロジェ クト	アーティスト・トーク	TOPボランティアによるアニメーションオープ ンワークショップ	令和5年2月5日(日)11日 (土)、18日(土)	当館ボランティア	103
			アーティスト・トーク	令和5年3月19日(日)、 25日(土)、26日(日)		175
深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ		深瀬昌久 作家活動30年の軌跡	令和5年3月3日(金)	トモ・コスガ(深瀬昌久アーカイブス、ディレクター)	159	
		13 Ways of Looking at Fukase	令和5年3月5日(日)	アマンダ・マドックス(世界報道写真財団、主任キュレ ーター)	71	
参加人数合計 1,318人						

## 【誘致展】

展覧会・事業名	部門	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
岩合光昭写真展 PANTANAL パンタナール 清流がつむぐ動物たちの大湿原	岩合光昭 スペシャルトーク		令和4年6月25日(土)	岩合光昭(出品作家)	367
スポーツ報知創刊150周年報道写真展「瞬間の記憶」	トークショー		令和4年7月16日(土)	高橋由伸(スポーツ報知評論家)、加藤弘士(スポーツ報知デジタル編集部デスク)、水井基博(スポーツ報知デジタル編集部デスク 元巨人担当キャップ)	121
写真新世紀展 2021	アーティスト・トーク		令和4年10月16日(日)	一般投票で選ばれた歴代受賞者および2021年グランプリ受賞者によるアーティスト・トーク	81
	トークショー		令和4年11月5日(土)	大森克己(1994年優秀賞/審査員)、佐内正史(1995年優秀賞/審査員)、奥山由之(2011年優秀賞)	81
	トークショー及びレクチャー	「写真・美術の現在と未来—写真新世紀を振り返って」	令和4年11月6日(土)	【第一部トークショー】飯沢耕太郎(写真評論家)×南條史生(美術評論家)【第二部レクチャー】野口里佳(写真家)	183
	歴代受賞者によるスライドショー	「もう一度聴いてみたい、見てみたい、あなたのプレゼンテーション」	令和4年11月13日(日)	青山裕企、伊丹 豪、伊藤トオル、内倉真一郎、佐伯慎亮、櫻井園子、澤田 華、野村 浩、三田健志、南 阿沙美、守田衣利	111
星野道夫 「悠久の時を旅する」	対談	「アラスカとの出会いを通して」	令和4年11月20日(日)	星野直子(星野道夫事務所代表)、大竹英洋(写真家)	168
	記念講演会	「悠久の時を旅する 星野道夫が見続けた風景をたどって」	令和4年12月3日(土)	星野直子(星野道夫事務所代表)	157
	レクチャー		令和5年1月7日(土)	星野直子(星野道夫事務所代表)	147
	写真と音楽	度をする音楽「星野道夫の写真とharuka nakamuraのピアノ」	令和5年1月11日(水)	星野直子(星野道夫事務所代表)	19
	APAアワード2023	授賞式	令和5年2月25日(土)	haruka nakamura、本田慶一郎(朗読)	340
参加人数合計 1,970人					195

## 動画配信

### 【収蔵展・自主企画展】

在宅でも展覧会を楽しんでいただくため、動画配信を積極的に推進した。

展覧会・事業名	内容	講師等	視聴回数*
写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて	代表作品を紹介するPR動画		1,591
	写真技法からみる「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」	高橋則英(日本大学芸術学部写真学科特任教授・本展監修)	825
	ニコニコ美術館※1		17,218
TOPコレクション 光のメディア	展示風景		1,589
	ニコニコ美術館※1		17,218
アヴァンギャルド勃興 近代日本の前衛写真	展示風景		1,136
	TOPMUSEUM Podcast「ゲストトーク」前編・後編	塩塚モエカ(オルタナティブ・ロックバンド「羊文学」ボーカル・ギター)×藤村里美(担当学芸員)	3,356
イメージ・メイキングを分解する	TOPMUSEUM Podcast「作家とゲストによるトーク」前編・後編	藤幡正樹(出品作家)×原島大輔(研究者・基礎情報学/表象文化論)	1,268
見るは触れる 日本の新進作家 vol.19	作家インタビュー	水木 壘(出品作家)、澤田 華(出品作家)、永田康祐(出品作家)、岩井 優(出品作家)、多和田有希(出品作家)	5,158
	ニコニコ美術館※2		11,479
野口里佳 不思議な力	作家インタビュー	野口里佳(出品作家)	1,993
	TOPMUSEUM Podcast「アーティストトーク(12/16実施分)前編・後編」	野口里佳(出品作家)	1,137
	ニコニコ美術館※2		11,479
恵比寿映像祭2023 テクノロジー?	ニコニコ美術館		12,269
	恵比寿映像祭2023 見どころトーク(オンラインプログラム)		1,055
深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ	代表作品を紹介するPR動画		1,517
視聴回数合計 61,591回			

※1「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」「TOPコレクション 光のメディア」 同日配信

※2「見るは触れる 日本の新進作家 vol.19」「野口里佳 不思議な力」 同日配信

**教育普及事業****ギャラリートーク****【収蔵展・自主企画展】**

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
アヴァンガルド勃興 近代日本の前衛写真	令和4年7月15日(金)	藤村里美(担当学芸員)	7
TOPコレクション メメント・モリと写真	令和4年7月22日(金)、9月9日(金)	浜崎加織(担当学芸員)	36
イメージ・メイキングを分解する	令和4年9月27日(火)	多田かおり(担当学芸員)	15
見るは触れる 日本の新進作家 vol.19	令和4年9月27日(火)、10月27日(木)、 11月10日(木)、12月8日(木)	遠藤みゆき(担当学芸員)	36
野口里佳 不思議な力	令和4年11月24日(木)、12月15日(木)、 令和5年1月6日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	43
参加人数合計 137人			



## 収集の基本方針

平成元(1989)年2月3日(昭和63年度)策定

写真作品(オリジナル・プリント)を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

### [写真作品]

- 1.国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2.写真の発生から現代まで、写真史のうえで重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3.歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4.東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5.日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
- 6.基本方針「写真作品」5.に基づき作品を収集した第一期重点収集作家(17名、五十音順)秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

### [写真資料]

- 1.出版物(写真集、専門書、雑誌)については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2.ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3.ポスターなど、写真展の付属資料(図録、チケット等)を収集する。
- 4.その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

### [写真機材類]

- 1.写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2.体験学習などの事業活動に必要となるものを収集する。

### [映像資料]

- 1.映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2.体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3.日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4.各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

### [作品収集の目標]

- 1.長期収集計画 7万5千点以上  
内訳:写真作品(国内・海外50,000点以上、写真作品以外の資料25,000点以上)

## 写真作品収集の指針 平成18(2006)年11月13日策定

- 1.写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2.黎明期の写真のように、希少的価値のある作品を積極的に収集する。
- 3.写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4.1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5.日本の新進作家展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6.写真美術館の展覧会(自主展、収蔵展)で取り上げた作家作品を収集する。
- 7.基本方針「写真作品」5.に基づく新規重点作家の設定
  - (1) 日本を代表する作家であること
  - (2) 国内外で評価が高いこと
  - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
  - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
  - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
  - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場価格の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
  - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8.写真作品収集の新指針7に基づく第二期重点収集作家(21人、五十音順)荒木経惟、石内都、オノデラユキ、北井一夫、北島敬三、小山穂太郎、佐藤時啓、篠山紀信、柴田敏雄、杉本博司、鈴木清、須田一政、高梨豊、田村彰英、畠山直哉、深瀬昌久、古屋誠一、宮本隆司、森村泰昌、やなぎみわ、山崎博
- 9.写真作品収集の新指針7に基づく第三期重点収集作家(14人、五十音順)、平成30(2018)年11月21日策定  
江成常夫、尾仲浩二、金村修、川内倫子、鬼海弘雄、鈴木理策、瀬戸正人、鷹野隆大、長島有里枝、ホンマタカシ、松江泰治、宮崎学、本橋成一、米田知子

## 令和4年度 東京都写真美術館 作品資料収集方針

### I 東京都購入

#### 1 購入作家及び点数

16作家 60点

#### 2 考え方

東京都写真美術館「収集の基本方針」に基づき策定した「令和4年度東京都写真美術館における収藏品購入に関する方針」に基づき、以下の作品収集を行う。なお、令和4年度展覧会出品作家作品を計画的に収集し、質の高い展覧会事業を実現する。

(1) 国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要展覧会において取り上げられた作家の作品など、活躍の著しい新進作家の写真・映像作品を収集する。

・令和4年度新進作家展出品作家 5作家  
(水木壘、澤田華、多和田有希、永田康祐、岩井優)  
・フィンランドを代表する世界的写真家と日本の新進作家による東京の記録  
(マルヤ・ピリヤ、崔聡子+蔵原智子〈インナー・ランドスケープス・トーキョー〉)

(2) 写真作品について、以下を踏まえて作品の収集を図る。

- ・日本を代表する作家であること。
- ・国内外での評価が高い作家であること。
- ・日本における写真の一分野を代表する作家であること。
- ・国内外の主要美術館で作品が収集され、個展が開催されている作家。

第二期重点収集作家：深瀬昌久展 出品作家作品 深瀬昌久〈洋子〉

(3) 東京都写真美術館の展覧会で取り上げる作家の写真・映像作品等、東京都写真美術館の美術館活動に資する作品を収集する。

・令和4年度収蔵展「アヴァンガルド勃興」出品作品 音納捨三《題不詳(フォトグラム)》  
・令和5年度自主企画展「本橋成一とロベール・ドアノー」出品作品：ロベール・ドアノー 《カフェ「ドゥ・マゴ」のシモーヌ・ド・ポーヴォワール》他  
・令和4年度収蔵展「野口里佳」出品作品〈潜る人〉

(4) 映像作品・資料について、以下を踏まえて収集を図る。

- ・国内外で評価の高い作家・作品であること。
- ・各映像ジャンルの代表的な作品であること。
- ・映像表現及び技術等の映像史において重要な役割を果たした作品であること。

・令和4年度映像展「イメージ・メイキングを分解する」出品作品  
タマシュ・ヴァリツキー〈想像のカメラ〉  
・令和5年度自主企画展「イメージと記憶」出品作品  
グエン・チン・ティ 《バンドゥランガからの手紙》  
・令和5年度映像展出品予定  
渡辺 豪 《回転するアトリエ》他  
今井祝雄 《阿倍野筋》他 ※写真作品含む

### II 東京都写真美術館購入

#### 1 購入作家及び点数

5作家 38点

#### 2 考え方

「令和4年度東京都写真美術館における収藏品購入に関する方針」に基づき、以下の作品収集を行う。

- (1) 写真作品について、以下を踏まえて作品の収集を図る。
- ・日本を代表する作家であること。
  - ・国内外での評価が高い作家であること。
  - ・日本における写真の一分野を代表する作家であること。
  - ・国内外の主要美術館で作品が収集され、個展が開催されている作家。

第三期重点収集作家：本橋成一とロベール・ドアノー出品作家作品 本橋成一〈炭鉱〉他

(2) 東京都写真美術館の展覧会で取り上げる作家の写真・映像作品等、東京都写真美術館の美術館活動に資する作品を収集する。

・令和4年度収蔵展「光のメディア」出品作品  
スーザン・ダージェス《ハーフ・ムーン・プロッサム・ブルー》  
田口和奈〈エウリュディケーの眼〉

(3) 写真・映像史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く体系的に収集するとともに、希少的価値のある作品を積極的に収集する。

・希少価値の高い初期写真  
令和4年度収蔵展「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」出品作品  
作家不詳《(函館港全景)》  
田本研三《(倉庫地から市街を望む)》

### III 寄贈

#### 1 寄贈作家及び点数

41作家 315点

#### 2 考え方

展覧会開催及び作品購入に伴う寄贈、当館のコレクション充実資する作品資料の寄贈

令和4年度収集点数：413点

【内訳】国内写真作品：235点 海外写真作品：147点 映像作品資料：29点 写真資料 2点

東京都写真美術館コレクション点数：37,312点

【内訳】国内写真作品：24,753点 海外写真作品：6,066点 映像作品資料：2,595点 写真資料：3,898点

【東京都購入作品】

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
今井祝雄	《Red Light》	発色現像方式印画	754×1057	3	1976	令和5年度映像展出品予定作品
音納捨三	《題不詳 (フォトグラム)》	ゼラチン・シルバー・プリント	397×283	1	1930年代	令和4年度「アヴァンギャルド勃興」展出品作品
Satoko Sai+ Tomoko Kurahara	《インナー・ランドスケープス、トーキョー》より《Hiroataka》他	陶		4	2022	
多和田有希	《WHITE OUT No.9》《WHITE OUT No.10》	インクジェット・プリント	1000×1500	2	2007	令和4年度「日本の新進作家」展出品作家
永田康祐	《Function Composition》	インクジェット・プリント	1200×1800	3	2019	令和4年度「日本の新進作家」展出品作家
野口里佳	《潜る人》《さかなとへび》	発色現像方式印画	2160×990 他	5	1995 他	令和4年度「野口里佳」展出品作品
深瀬昌久	《無題 (窓から)》/《洋子》	ゼラチン・シルバー・プリント	302×200 他	8	2019	
水木壘	《雑草のポートレート及び都市の地質学 (dubbed version 4)》他	インクジェット・プリント	1940×1294	2	2022	令和4年度「日本の新進作家」展出品作品
Robert Doisneau	《雪の中のダイビングあるいは氷の乳房》他	ゼラチン・シルバー・プリント	390×220 他	8	1968 他	令和5年度「本橋成一とロベール・ドアノー」展出品予定作品
Marja Pirilä	《インナー・ランドスケープス、トーキョー》	インクジェット・プリント	813×1016	6	2022	
今井祝雄	《阿倍野筋》	16ミリフィルム	カラー/サイレント/21分26秒	1	1977	令和5年度映像展出品予定作品
岩井優	《The White Bulding Washing》他	3チャンネル・ビデオ 他	カラー/サウンド/11分50秒 他	3	2012 他	令和4年度「日本の新進作家」展出品作家
澤田華	《16のポストビューおよび目下のシーン》他	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サイレント/17分21秒 他	2	2022	令和4年度「日本の新進作家」展出品作品
渡辺豪	《回転するアトリエ (ロフト)》《積み上げられた本》	シングルチャンネル・ビデオ	4Kビデオ/33分49秒	2	2021-	
Nguyễn Trinh Thi	《バンドゥランガからの手紙》	シングルチャンネル・ビデオ	35分	1	2015	エディション4/4
Tamás Waliczky	《想像のカメラ》	インクジェット・プリント	1190×840	9	2016 他	令和4年度「イメージ・メイキングを分解する」展出品作品
合計				60		

【東京都写真美術館購入作品】

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
田口和奈	《エウリュディケーの眼》	ゼラチン・シルバー・プリント	147×105	10	2019	令和4年度「光のメディア」展出品作品
本橋成一	《ベラルーシ共和国 ベトカ パープジェ村》他	ゼラチン・シルバー・プリント	528×356 他	25	1996 他	令和5年度「本橋成一とロベール・ドアノー」展出品予定作品
Susan Derges	《ハーフ・ムーン・ブロッサム・ブルー》	銀色素漂白方式印画	1295×600	1	2003	令和4年度「光のメディア」展出品作品
作家不詳	《(函館港全景)》	鶏卵紙	198×260	1	c.1892	令和4年度「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」展出品作品
田本研造	《(倉庫地から市街を望む)》	鶏卵紙	198×513	1	c.1892	令和4年度「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」展出品作品
合計				38		

\*東京都写真美術館購入作品については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

作品収集実績

【寄贈】

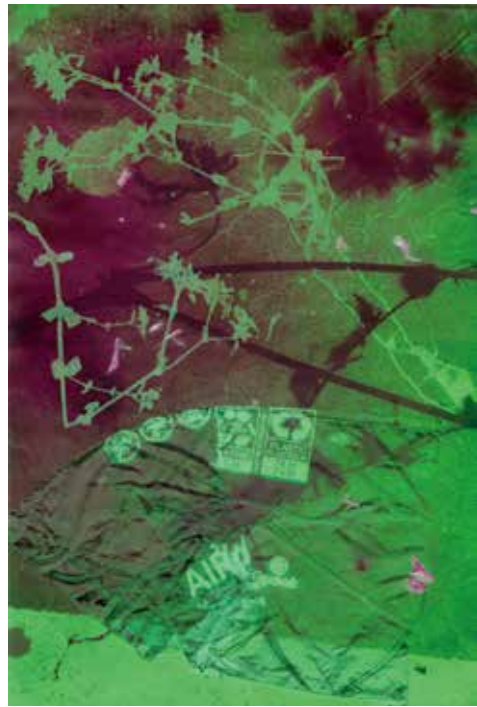
作家名	作品名/シリーズ名等	技法	サイズ(mm)/尺	制作年	点数	備考
浅井慎平	《海》	ゼラチン・シルバー・プリント	200×255	c.1970	3	個人コレクターからの寄贈
飯田鉄	《写真都市》	ゼラチン・シルバー・プリント	200×250	c.1970	1	個人コレクターからの寄贈
糸井潤	《トポロジー》	インクジェット・プリント	550×685	2015他	3	作家からの寄贈
今井祝雄	《Red Light-D》	発色現像方式印画	75.5×105.7 (frame size)	1976	1	購入に伴う寄贈
今井寿恵	《サラブレッド》	発色現像方式印画	115×165	c.1970	9	個人コレクターからの寄贈
音納捨三	題不詳	ゼラチン・シルバー・プリント	471×326	c.1940	1	購入に伴う寄贈
川田喜久治	題不詳(カラー作品)	ダイ・トランスファ・プリント	200×300	c.1970	1	個人コレクターからの寄贈
齊藤陽道	《ことづけがみえない》	インクジェット・プリント	1017×1448	2014	1	個人コレクターからの寄贈
坂田栄一郎	《Fashion》	銀色素漂白方式印画	220×210	c.1970	1	個人コレクターからの寄贈
櫻井一郎	《満蒙印画輯》	ゼラチン・シルバー・プリント	213×300×90	c.1923~	1	個人コレクターからの寄贈
Satoko Sai+ Tomoko Kurahara	《インナー・ランドスケープス、トーキョー》より《Ekuko》他	陶器他	直径27.0×高9.5他	2020	4	購入に伴う寄贈
沢渡朔	《少女アリス》	銀色素漂白方式印画	260×260	c.1970	4	個人コレクターからの寄贈
柴田敏雄	《福島県いわき市田人町》他	ゼラチン・シルバー・プリント	800×990	1990	6	個人コレクターからの寄贈
島田謹介	《深大寺裏》	ゼラチン・シルバー・プリント	200×300	c.1970	1	個人コレクターからの寄贈
嶋田忠	《カワセミ 静寂の刻》他	インクジェット・プリント	274×410	1971	49	令和元年自主企画展「嶋田忠 野生の瞬間」出品作品
田村彰英	《星条旗》	銀色素漂白方式印画	250×300	c.1970	1	個人コレクターからの寄贈
多和田有希	《WHITE OUT No.12》他	インクジェット・プリント	1000×1500	2,007	3	購入に伴う寄贈
内藤正敏	《桜》	ゼラチン・シルバー・プリント	200×250	c.1970	1	個人コレクターからの寄贈
並河万里	《若草山の山焼き》	発色現像方式印画	150×255	c.1970	1	個人コレクターからの寄贈
奈良原一高	《欧州城》	発色現像方式印画	160×240	c.1970	1	個人コレクターからの寄贈
深瀬昌久	《無題(窓から)》/《洋子》	ゼラチン・シルバー・プリント	302×200他	1973	7	購入に伴う寄贈
松江泰治	《UIO 70746》他	発色現像方式印画	1110×1375	2021	2	令和3年度自主企画展「松江泰治 マキエタCC」出品作品
松本徳彦	《世界の舞台芸術》他	銀色素漂白方式印画他	525×355他		61	個人からの寄贈
水木豊	《雑草のポートレートおよび都市の地質学 (dubbed version 3)》他	インクジェット・プリント	2000×3000他	2,022	2	購入に伴う寄贈
森永純	《波、海》	ゼラチン・シルバー・プリント	200×255	c.1970	2	個人コレクターからの寄贈
横須賀功光	《光の庭》	銀色素漂白方式印画	1070×1070(額寸)	1990	1	法人からの寄贈
吉田志穂	《砂の下の鯨》	インクジェット・プリント	1000×800 他	2021	4	令和3年度「日本の新進作家vol.18」展出品作品
Andreas FEININGER	《A broken shell, sculpture by Nature》他	発色現像方式印画他	475×312他	1986他	101	法人からの寄贈
Barbara KASTEN	《Architectural Site 8》他	銀色素漂白方式印画	920×720	1986	4	個人コレクターからの寄贈
Mauricio GUILLÉN	《Yoo Gunaa》	発色現像方式印画	243×164	2019-2020	3	令和2年度「写真とファッション」展関連作品
Bernard FAUCON	《Les Idoles et Les Sacrifices》	フレッソン印画	590×590	1991	24	個人コレクターからの寄贈
A Decade to Download Project Team	A DECADE TO DOWNLOAD -THE INTERNET YAMI-ICHI2012 - 2021 [SPECIALEDITION]	限定版書籍	187×297	2022	1	作家からの寄贈
小田香	《セノーテ・ラッシュフィルム》	16ミリフィルム(8ミリフィルムからのブローアップ)	60分(15分×4本のフィルム)/カラー/サイレント	2019	1	作家からの寄贈、「第14回恵比寿映像祭」出品作品
佐藤朋子	《オバケ東京のためのインデックス 序章 Dual Screen Version》	ビデオ・インスタレーション	56分	2022	1	令和3年度「第14回恵比寿映像祭」出品作品
永田康祐	《Translation Zone》他	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サウンド/27分23秒他	2019	2	購入に伴う寄贈
川野洋	《Art Ex Machina》1972年シルクスクリーン 6作家6点から成るポートフォリオ	シルクスクリーン	508×382	1972	1	個人からの寄贈、令和4年度「イメージ・メイキングを分解する」展出品作品
Kenneth KNOWLTON	《Art Ex Machina》1972年シルクスクリーン 6作家6点から成るポートフォリオ	シルクスクリーン	382×508	1972	1	個人からの寄贈、令和4年度「イメージ・メイキングを分解する」展出品作品
Georg NEES	《Art Ex Machina》1972年シルクスクリーン 6作家6点から成るポートフォリオ	シルクスクリーン	382×508	1972	1	個人からの寄贈、令和4年度「イメージ・メイキングを分解する」展出品作品
Frieder NAKE	《Art Ex Machina》1972年シルクスクリーン 6作家6点から成るポートフォリオ	シルクスクリーン	508×382	1972	1	個人からの寄贈、令和4年度「イメージ・メイキングを分解する」展出品作品
Manuel BARBADILLO	《Art Ex Machina》1972年シルクスクリーン 6作家6点から成るポートフォリオ	シルクスクリーン	508×382	1972	1	個人からの寄贈、令和4年度「イメージ・メイキングを分解する」展出品作品
Manfred MOHR	《Art Ex Machina》1972年シルクスクリーン 6作家6点から成るポートフォリオ	シルクスクリーン	508×382	1972	1	個人からの寄贈、令和4年度「イメージ・メイキングを分解する」展出品作品
合計					315	

# 令和4年度新収蔵作品の紹介

## 東京都購入案件



音納捨三 《題不詳》 1930年代 ゼラチン・シルバー・プリント



水木壘 《雑草のポートレートおよび都市の地質学 (dubbed version 4)》 2022  
インクジェット・プリント



多和田有希 《WHITE OUT No.9》 2007 インクジェット・プリント



澤田華 《漂うビデオ (水槽、リュミエール兄弟、映像の角)》 2022 シングルチャンネル・ビデオ・インスタレーション (プロジェクター、脚立、撮影用背景スタンド、他)、9分11秒、カラー、サウンド



岩井優 《Galaxy Wash》 2008 シングルチャンネル・ビデオ、14分45秒、カラー、サウンド



永田康祐 《Function Composition (Peppers)》 2019 インクジェット・プリント

令和4年度新収蔵作品の紹介  
東京都購入案件



タマシュ・ヴァリツキー 《想像のカメラ》《二眼レフカメラ》 2017 コンピュータ・グラフィック、インクジェット・プリント



Marja PIRILÄ 《Hiroataka》〈インナー・ランドスケープス、トーキョー〉 2022  
インクジェット・プリント



グエン・チン・ティ 《バンドゥランガからの手紙》 2015 シングル・チャンネル・ビデオ



野口里佳 《潜る人 #1》 1995 発色現像方式印画



Satoko Sai+Tomoko Kurahara 《Hiroataka》〈インナー・ランドスケープス、トーキョー〉 2020 陶器(手びねり成型、下絵転写、施釉)



Robert Doisneau 《ミルクを買いに行く子どもたち》 1932  
ゼラチン・シルバー・プリント



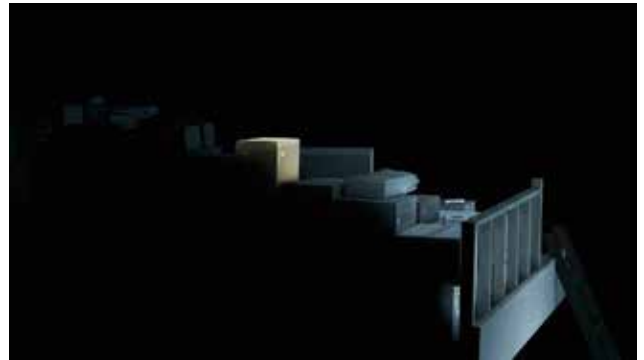
今井祝雄 〈Red Light〉 《Red Light-A》 1976 発色現像方式印画



今井祝雄 〈阿倍野筋〉 1977 16ミリプリント (オリジナル=8ミリフィルム) +アーカイヴ用デジタル【2K/Prores422HQ】 (シングルチャンネル/21分26秒/カラー/サイレント)



深瀬昌久〈洋子〉 《無題 (窓から)》 1973 ゼラチン・シルバー・プリント



渡辺豪 〈回転するアトリエ (ロフト)〉 2021-2022 4Kビデオ [3Dアニメーション] (シングルチャンネル/33分49秒/カラー/サイレント)

東京都写真美術館購入案件



作家不詳 《(函館港全景)》 c.1892 鶏卵紙



田本研造 《(倉庫地から市街を望む)》 c.1892 鶏卵紙



田口和奈 《エウリュディケーの眼 #8》 2020 ゼラチン・シルバー・プリント



本橋成一 《ベラルーシ共和国 チェチュルスク ハローチエ村》 1993  
ゼラチン・シルバー・プリント



スーザン・ダージェス 《ハーフ・ムーン・ブロッサム - ブルー》 2003  
銀色素漂白方式印画



**【東京都写真美術館図録論文】**

**石田哲朗**

「不思議な力に導かれて 野口里佳の写真と映像」『野口里佳 不思議な力』展図録、赤々舎、2022年、pp.114-117

**遠藤みゆき**

「見るは触れる」『見るは触れる 日本の新進作家vol.19』展図録、東京都写真美術館、2022年、pp.8-13

田坂博子、多田かおり、伊藤貴弘、遠藤みゆき、藤村里美、大崎千野、小林麻衣子、山崎香穂、徳本宏子、関昭郎『恵比寿映像祭2023』ガイドブック、東京都写真美術館、2023年

**鈴木佳子**

「展覧会ノート」『深瀬昌久1961-1991レトロスペクティブ』展図録、赤々舎、2023年、pp.154-155

**多田かおり**

「イメージ・メイキングを分解する」『イメージ・メイキングを分解する』展図録、東京都写真美術館、2022年、pp.112-115

**浜崎加織**

「メメント・モリと写真 死は何を照らし出すのか」『TOPコレクション メメント・モリと写真 死は何を照らし出すのか』展図録、東京都写真美術館、2022年、pp.149-156

**藤村里美**

「前衛写真の時代」『アヴァンギャルド勃興—近代日本の前衛写真』展図録、国書刊行会、2022年、pp.192-199

**【東京都写真美術館紀要No.22】**

**小島ひろみ**

「第58回カーネギー・インターナショナルとヒロシマー土田ヒロミ〈ヒロシマ・コレクション〉参加事例から」 pp.9-29

**白石咲良**

「植田正治に関する一考察—シリーズ〈幻視遊間〉を通して」 pp.31-47

**【寄稿】**

**石田哲朗**

「東京都写真美術館の活動—コレクション作品を中心に」『美術館と学芸員1学芸員課程講義録』東京造形大学研究報別冊20、

2023年、pp.33-46

**伊藤貴弘**

「不在の輪郭——『one's signal』について」『one's signal』KEN NAKAHASHI、2022年、n.pag.

「沖縄写真の軌跡⑦」『沖縄タイムス』2022年7月7日号、15面  
「イメージの迷宮——川田喜久治の『ロス・カブリチョス 遠近』について」、PGIウェブサイト、2022年、<https://www.pgi.ac/8278>

「十文字美信インタビュー『ハワイに移住した日本人たち、ひとりひとりの歴史と向き合う』『IMA』Vol.38、2022年、pp.115-122

「現代の肖像 石川直樹」（コメント）『AERA』2023年2月20日号、p.58

「推薦理由」『VOCA展2023』展図録、上野の森美術館、2023年、p.78

「世界認識の方法——磯谷博史『動詞を見つける』について」「磯谷博史『動詞を見つける Find Your Verb』展図録、小海町高原美術館、2023年、pp.26-29

**大崎千野**

「学芸員の心に残る作品⑥より『手紙から紡がれた作品世界』、都政新報、2022年5月17日、6面

**関次和子**

「金子隆一氏を偲んで」『写真史家・金子隆一の軌跡』、エムイーエム有限会社、2022年6月28日、pp.39-40

「写真家・白川義員さんをしのぶ」（コメント）中日新聞、8月12日夕刊

「白川義員写真展 天地創造より『K2』」、愛媛新聞、2023年1月20日朝刊

「白川義員写真展 天地創造より『ウユニ塩湖、ポリビア』」、愛媛新聞、2023年2月10日朝刊

「APAアワード2023広告作品部門審査結果 広告写真部門 講評」、日本広告写真家協会、2023年2月25日

**田坂博子**

「旅する映画：拡張する三宅唱作品」『ユリイカ 特集=三宅唱』2022年12月号、青土社、pp.2-4

「ART!：ドキュメンタ15から考える」毎日新聞 2022年10月9日 朝刊

「ART!：価値観揺さぶるNFT」毎日新聞 2022年12月11日 朝刊

「ART!：想像力と創造力」毎日新聞 2023年2月12日 朝刊

**多田かおり**

「個人映画の現在地」『藝術新潮』新潮社、2023年1月号、pp.48-51

**藤村里美**

「学芸員の心に残る作品⑫より『今に残る前衛写真』」都政新報、

2022年7月5日、8面

### 山田裕理

「写真の『今』を語る〈第5回〉須藤絢乃×山田裕理『キヤノンフォトサークル』2022年8月号、pp.36-37

### 山口孝子

「2021年の写真の進歩、6.画像保存-展示・修復・保存関係」、『日本写真学会誌』第85巻第3号、一般社団法人日本写真学会、2022年、pp.191-193.

「東京都写真美術館の改修における作品保護への取り組み」、『国立民族学博物館調査報告155 持続可能な博物館資料の保存を考える』、園田直子編、遊文舎、2022年、pp.103-118.

## 【学会発表】

### 山口孝子

Yoko Shiraiwa, Takako Yamaguchi, Masahiko Tsukada and Takayasu Kijima, 「Painting or Photograph? - Study of Avant-Garde photographer Noboru Ueki (1905-1992)」, 2nd Edition of Colour Photography and Film, Gruppo del Colore - Associazione Italiana Colore, Florence, Italy, 2022年9月15日.

## 【講演会・シンポジウム等】

### 伊藤貴弘

「村田啓 | So Long So Far」展アーティスト・トーク、People、2022年4月22日

「築山礁太『窓の中の言葉について』」展トークイベント、MIDORI. so Bakuroyokoyama、2022年10月16日

### 関昭郎

「美術館コレクションの構築：東京都写真美術館／東京国立近代美術館」（登壇者：増田玲（東京国立近代美術館）、関昭郎）フォトシティ日比谷OKUROJI フォトフェア、2022年10月10日

### 関次和子

「自然写真の系譜」HOKKAIDO PHOTO FESTA 2022関連レクチャー、モエレ沼公園ガラスのピラミッド、札幌、2022年10月30日

「白川義員がとらえたもの」追悼記念トークセッション、（登壇者：村上仁一 [合同会社PCT/雑誌『写真』編集長]、杉山はるか [愛媛県美術館学芸員]、関次和子)、愛媛県美術館、2023年1月14日

### 田坂博子

「Fujiko Nakaya Nebel Leben」展 関連シンポジウム「Fujiko

Nakaya.Multiverse」ハウス・デア・クンスト(ドイツ・ミュンヘン)、2022年7月30日

渡邊耕一「毒消草の夢 デトックスプランツ・ヒストリー」展関連 Gallery Talk、2023年1月14日

### 山田裕理

「令和4年度アートプラットフォーム事業 文化庁現代アートワークショップ(第4回)」愛知芸術文化センター、2022年9月23日～25日

「『じゃない写真』三刷記念トークイベント(渡部さとる×山田裕理)」『2B Channel』オンライン配信、2022年12月17日

## 【非常勤講師等】

### 石田哲朗

東京都立大学オープンユニバーシティ「日本の魅力ある博物館・美術館シリーズ・東京都写真美術館 写真と映像の歴史に学ぶ」オンライン 10月20日、27日、11月10日、17日

### 伊藤貴弘

東京藝術大学美術学部「写真映像論」2022年7月19日

### 遠藤みゆき

明星大学「博物館情報・メディア論」秋学期

京都芸術大学「芸術専門演習2」「芸術専門研究2」2022年11月11日

青山学院大学「日本文学特講II [11]」「日本文学特講B」2022年12月9日

### 関次和子

多摩美術大学「美術館経営論」前期

### 武内厚子

跡見学園女子大学「写真論」秋学期

### 田坂博子

明治学院大学「デジタルアート論A/デジタルアート論1A」春学期  
東京藝術大学「写真映像論」2022年5月10日、5月17日(オンライン配信)

### 多田かおり

武蔵野美術大学「博物館情報・メディア論II」2022年7月11日  
東京藝術大学大学院映像研究科「エコゾフィー・レクチャーシリーズ」2022年9月4日

### 藤村里美

玉川大学芸術学部メディア・デザイン学科「写真史」2022年秋期

### 山田裕理

明治学院大学「現代社会と芸術3B」春学期・秋学期  
「KYOTOGRAPHIE京都国際芸術祭」International Portfolio Review  
レビュアー、2022年4月9日、10日

### 山口孝子

独立行政法人 国立文化財機構 文化財活用センター、令和4年度  
「博物館・美術館等の保存担当学芸員研修（基礎コース）」、2022  
年8月4日、2023年1月26日。

独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所、令和4年度  
「博物館・美術館等の保存担当学芸員研修（上級コース）」、2022  
年7月7日。

### 【委員・審査員等】

#### 伊藤貴弘

「VOCA展2023」推薦委員、「令和4年度（第73回）東京都立高等  
学校定時制通信制芸術祭写真部門」審査委員、「NPI卒業作品展  
アワード」選考員

#### 関次和子

高知県立美術館運営委員会委員、目黒観光写真コンクール審査  
員、横浜市美術資料収集審査委員会、第70回ニッコールフォトコ  
ンテスト審査員、公益社団法人日本広告写真家協会公募展 広  
告作品部門審査委員、HOKKAIDO PHOTO FESTA 2022ポートフ  
ォリオレビュアー、川崎市市民ミュージアム資料等収集懇談会委員、  
第86回香川県美術展審査員（写真部門）

#### 武内厚子

第56回かわさき市美術展写真部門審査員

#### 藤村里美

日本写真芸術学会理事、神奈川県美術展委員、神奈川県美術展  
審査員（写真部門）

#### 山田裕理

金子隆一追悼展「写真史家・金子隆一の軌跡」実行委員、Prix  
Pictet Japan Award審査員、軽井沢フォトフェスト審査委員

#### 山口孝子

日本写真学会理事、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写  
真保存センター諮問委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検  
討委員会委員、国立民族学博物館共同研究員

### 【インターン】

東京都写真美術館では、平成20年からインターン制度を導入し  
ている。令和4年度も指導学芸員とともに美術館のスタッフとして、

展覧会事業補助、作品管理業務補助等を担当し、将来の美術活  
動及び写真・映像文化を支える専門的な人材育成を行った。

#### 白石咲良

担当業務：「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」「岩合  
光昭写真展 PANTANAL」「見るは触れる 日本の新進作家vol.19」  
「野口里佳 不思議な力」「恵比寿映像祭2023」令和5年度TOPコ  
レクション展（展覧会事業補助）、作品管理補助

指導員：遠藤みゆき

#### 張雅瓊

担当業務：「深瀬昌久1961-1991 レトロスペクティブ」展（展覧会  
事業補助）、作品貸出・作品収集補助

指導員：鈴木佳子

#### Lisa LAFONTAINE

（フランス国立文化財院からの派遣）

担当業務：初期写真、およびその保管に関する調査他

指導員：関昭郎、山口孝子、遠藤みゆき

令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響があったが、当館の事業と施設の安全面を幅広くアピールしつつ、展覧会関連イベントとして落語会の開催や、3年ぶりにスタンプラリーを実施するなど、お客様に積極的に来館を促す広報を行なった。また、オンラインを活用した広報も引き続き強化し、これまで活用してきた動画コンテンツ、SNSメディアに加え、音声コンテンツの配信を新たに始め、リアルとオンラインの両方で東京都写真美術館を楽しめる広報に努めた。

## 1 広報誌発行

### a 「東京都写真美術館ニュースeyes (アイズ)」

(vol.109~112)

季刊、発行部数：109号・110号・112号10,000部、111号15,000部  
 <巻頭記事・メインテーマ>

109号「TOPコレクション メメントモリと写真」「アヴァンガルド 勃興 近代日本の前衛写真」「令和4年度展覧会スケジュール」

110号「イメージ・メイキングを分解する」「日本の新進作家 vol.19 見るは触れる」

111号「野口里佳 不思議な力」「恵比寿映像祭2023」

112号「深瀬昌久 1961-1991」「TOPコレクション セレンディビティ」「令和5年度展覧会スケジュール」



eyes109号



eyes111号

### b 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」 vol.136~vol.147

月刊、発行部数：各号25,000部

展覧会をはじめとしたさまざまな美術館活動を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として、漫画家カレー沢薫氏とコラボレーションした「nya-eyes (ニアイズ)」を発行した。



ニアイズ139号



ニアイズ140号

## 2 プレスリリース、チラシの配布およびポスター掲示

各展覧会についてプレスリリースを制作し、展覧会開催の2か月前を目途に、テレビ・ラジオ・雑誌・WEB等幅広いメディアに配信した(約700件)。配信に際しては、これまでの郵送による配布に加え、今年度からメール配信を開始した。あわせて、A4チラシとB2またはB3ポスターを全国の美術館、ギャラリー、教育施設、財団関係各所、恵比寿ガーデンプレイス周辺や、「あ・ら・かるチャー文化施設運営協議会」関係施設に配布した(約380件)。また、今年度からチラシ配達サービスを利用し、全国のユーザー(約6,000名)に展覧会チラシ、東京都写真美術館ニュース「eyes」、別冊「nya-eyes」等を配布した。

## 3 プレス対応

令和4年度は、東京都写真美術館や展覧会についてなど、幅広い取材依頼に対応した。プレスリリースの配信時期の早期告知およびバラエティーに富んだ作品図版の提供を心がけ、作家や担当学芸員へのインタビュー取材も積極的に受けるなど、展覧会をわかりやすく紹介するため柔軟に対応した。令和3年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、プレス内覧会を説明会形式に変更し、安全面に配慮しながら展覧会および次年度の展覧会ラインナップなどを発表した。また、広報東京都、Tokyo Tokyo Festivalなど、東京都、財団への情報提供もおこなった。

### a. プレス内覧

展覧会名(開催日、媒体数、参加人数)

「アヴァンガルド 勃興 近代日本の前衛写真」(令和4年5月19日、25媒体・40名)

「TOPコレクション メメントモリと写真」「令和4年度の教育普及事業」(令和4年6月16日、28媒体・39名)

「イメージ・メイキングを分解する」(令和4年8月28日、16媒体・28名)

「日本の新進作家 vol.19 見るは触れる」(令和4年9月1日、18媒体・27名)

「野口里佳 不思議な力」(令和4年10月6日、27媒体・42名)

「恵比寿映像祭2023」(令和5年2月2日、39媒体・43名)

「深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ」(令和5年3月2日、41媒体・54名)



「イメージ・メイキングを分解する」プレス説明会より



「日本の新進作家vol.19 見るは触れる」プレス説明会より



「野口里佳 不思議な力」プレス説明会より



「深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ」プレス説明会より

## b. 展覧会広報記録

展覧会名 (テレビ・ラジオ、新聞、雑誌)

「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」(1件、67件、45件)

「TOPコレクション 光のメディア」(7件、44件、28件)

「アヴァンガルド勃興 近代日本の前衛写真」(2件、42件、63件)

「TOPコレクション メメントモリと写真」(1件、58件、66件)

「イメージ・メイキングを分解する」(1件、24件、39件)

「見るは触れる 日本の新進作家vol.19」(2件、28件、37件)

「野口里佳 不思議な力」(2件、53件、73件)

「恵比寿映像祭2023」(2件、71件、142件)

「深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ」(1件、22件、48件)



「見るは触れる 日本の新進作家vol.19」日本経済新聞掲載記事 (令和4年11月19日)



「野口里佳 不思議な力」毎日新聞掲載記事 (令和5年1月18日)

## 4 オンラインを活用した広報

令和3年度に引き続き、展覧会関連動画のコンテンツアップを積極的に行った。作家インタビューや展示作品紹介のほか、初期写真で使われた技法のレクチャー動画など、様々なメディアを活用し、展覧会を多角的に紹介することで、展覧会への来館促進とともに、当館展覧会の開催意義を広く伝える発信に努めた。また、今年度から新たに、音声コンテンツを配信する「TOPMUSEUM Podcast」を開設、じっくり聞くことで展覧会の理解を深めることを目的に6本のコンテンツを無料配信し、新しいユーザー獲得につなげた。当館ホームページの2022年4月～2023年3月までのページビュー総数は5,700,109PV、前年比128%と、コロナ後以降初めて、年間500万PVを超えた。また、公式ツイッターおよびインスタグラムそれぞれの特性を活かして、展覧会開催、ワークショップの募集など魅力的かつ迅速

に発信した。

ツイッターフォロワー数：53,706

インスタグラムフォロワー数：10,444

YouTube登録者数：2,022

**a. 「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」**

- ・代表作品を紹介するPR動画（再生回数：1,591回）
- ・本展監修者である高橋則英（日本大学芸術学部写真学科教授）氏が、当時の写真技法を解説する動画「写真技法からみる『写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて』」（再生回数：825回）
- ・「ニコニコ美術館」（令和4年3月23日生配信・アーカイブ、視聴回数：17,218回、コメント数：6,717本）

**b. 「TOPコレクション 光のメディア」**

- ・展示風景の動画（再生回数：1,589回）。
- ・「ニコニコ美術館」（令和4年3月23日生配信・アーカイブ、視聴回数：17,218回、コメント数：6,717本）

**c. 「アヴァンガルド勃興 近代日本の前衛写真」**

- ・展示風景の動画（再生回数：1,136回）
- ・オルタナティブロックバンド羊文学の塩塚モエカさんと担当学芸員が展覧会を対話しながら鑑賞するポッドキャスト「ゲスト・トーク|塩塚モエカ×藤村里美【アヴァンガルド勃興】」（前後編合計再生回数：3,356回）。

**d. 「イメージ・メイキングを分解する」**

- ・出品作家とゲストによるトーク第3回（オンライン開催）のポッドキャスト「作家とゲストによるトーク|藤幡正樹 × 原島大輔【イメージ・メイキングを分解する】」（前後編合計再生回数：1,268回）

**e. 「日本の新進作家vol.19 見るは触れる」**

- ・出品作家5名それぞれの展示風景と作家インタビュー動画（合計再生回数：5,158回）
- ・ニコニコ美術館（令和4年10月9日生配信・アーカイブ、視聴回数：11,479回、コメント：3,178本）

**f. 「野口里佳 不思議な力」**

- ・12月に開催したアーティスト・トークを収録したポッドキャスト（合計再生回数：1,137回）
- ・作家インタビュー動画（再生回数：1,993回）
- ・ニコニコ美術館（令和4年10月9日生配信・アーカイブ、視聴回数：11,479回、コメント：3,178本）

**g. 「恵比寿映像祭2023」**

- ・ニコニコ美術館（令和5年2月2日生配信・アーカイブ、視聴回数：12,269回、コメント：3,020本）

- ・オフサイト展示出品作家によるインタビュー動画（合計再生回数：258回）

- ・会期中に生配信した「見どころトーク『UDトーク字幕つきゲスト：牧原依里』」のアーカイブ配信（再生回数：304回）

**h. 「深瀬昌久 1962-1991 レトロスペクティブ」**

- ・代表作品を紹介するPR動画（再生回数：1,517回）



Youtube「TOPチャンネル」より「写真技法からみる『写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて』」



「TOPMUSEUMポッドキャスト」より「ゲスト・トーク|塩塚モエカ × 藤村里美【アヴァンガルド勃興】」



「野口里佳 不思議な力」作家インタビュー

**5 広告出稿**

年間を通じて、さまざまな媒体に展覧会や館広報のための広告を出稿した。SNS広告や交通広告（車内サイネージ、駅構内サイネージ等）のほか、J-waveでの特別番組制作など、幅広いターゲットに届く広告出稿をおこなった。

**a. 「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」**

- ・JR山手線まど上チャンネルスポットCM15秒（令和4年4月25日～5月1日）
- ・ツイッターターゲティング広告、1都3県、20歳以上（令和4年4月22日～5月5日）表示回数：780,089回
- ・フェイスブックターゲティング広告、1都3県、20歳以上（令和4年4月22日～5月5日）表示回数：742,616回

#### b. 「TOPコレクション 光のメディア」

- ・J-WAVE「CROSS POINT」特番(令和4年5月16日、17日、18日、19日)
- ・JR山手線まど上チャンネルスポットCM15秒(令和4年4月25日～5月1日)
- ・都営線チカッ都ビジョンスポットCM 15秒(令和4年5月16日～5月22日)
- ・ツイッターターゲット広告、1都3県、20歳以上(令和4年5月20日～6月2日) 表示回数：550,385回
- ・インスタグラムターゲット広告1都3県、16歳以上(令和4年5月20日～6月2日) 表示回数：253,181回

#### c. 「アヴァンガルド勃興 近代日本の前衛写真」

- ・JR山手線、横須賀線、総武快速まど上チャンネルスポットCM15秒(令和4年6月27日～7月3日)
- ・JR東日本J・ADビジョン恵比寿駅西口15秒、8面3柱(令和4年7月4日～7月31日)
- ・ツイッターターゲット広告、1都3県、20歳以上(令和4年6月24日～7月7日) 表示回数：511,281回
- ・フェイスブックターゲット広告、1都3県、20歳以上(令和4年6月24日～7月7日) 表示回数：350,605回
- ・インスタグラムターゲット広告1都3県、16歳以上(令和4年8月1日～8月14日) 表示回数：401,101回

#### d. 「TOPコレクション メメントモリと写真」

- ・JR山手線、横須賀線、総武快速まど上チャンネルスポットCM15秒(令和4年6月27日～7月3日)
- ・JR東日本J・ADビジョン恵比寿駅西口15秒、8面3柱(令和4年7月4日～7月31日)
- ・ツイッターターゲット広告、1都3県、20歳以上
  - ①(令和4年6月17日～6月30日) 表示回数：520,579回
  - ②(令和4年9月17日～9月24日) 表示回数：446,484回
- ・フェイスブックターゲット広告、1都3県、20歳以上
  - ①(令和4年6月24日～7月7日) 表示回数：286,269回
  - ②(令和4年9月17日～9月24日) 表示回数：477,416回
- ・インスタグラムターゲット広告1都3県、16歳以上
  - ①(令和4年8月9日～8月16日) 表示回数：422,066回
  - ②(令和4年9月17日～9月24日) 表示回数：420,546回

#### e. 「イメージ・メイキングを分解する」

- ・都営線チカッ都ビジョンスポットCM 15秒(①令和4年8月8日～8月21日 ②令和4年9月12日～9月25日)
- ・小田急線OTVスポットCM 15秒(令和4年8月8日～8月14日)
- ・京王各線K-DG チャンネル(令和4年8月8日～8月14日)
- ・京王線初台駅ポスター掲出(令和4年8月22日～9月18日)
- ・都営大江戸線清澄白河駅ポスター掲出(令和4年9月12月～9月25日)

- ・ツイッターターゲット広告、1都3県、20歳以上(令和4年9月10日～9月23日) 表示回数：1,051,205回
- ・インスタグラムターゲット広告、1都3県、16歳以上(令和4年9月10日～9月23日) 表示回数：403,132回

#### f. 「日本の新進作家vol.19 見るは触れる」

- ・J-WAVE SELECTION『SEEING AS THOUGH TOUCHING』特番(令和4年9月11日)、同スポットCM
- ・『東京新聞』出稿(朝刊、TV面、3段カラー、令和4年9月30日、11月3日)
- ・都営線チカッ都ビジョンスポットCM 15秒(①令和4年9月19日～9月25日 ②令和4年10月31日～11月6日)
- ・東京メトロ日比谷線恵比寿駅ポスター掲出(令和4年9月19日～10月2日)
- ・京王新線新宿駅ポスター掲出(①令和4年10月3日～10月23日 ②令和4年10月31日～11月27日)
- ・ツイッターターゲット広告、1都3県、20歳以上(令和4年9月10日～9月23日) 表示回数：1,169,305回
- ・インスタグラムターゲット広告1都3県、16歳以上(令和4年9月10日～9月23日) 表示回数：593,394回

#### g. 「野口里佳 不思議な力」

- ・都営線チカッ都ビジョンスポットCM 15秒(①令和4年10月10日～10月16日 ②令和4年12月19日～12月25日)
- ・京王各線K-DG チャンネル(令和4年12月26日～令和5年1月1日)
- ・京王線初台駅ポスター掲出(令和4年10月7日～11月7日)
- ・京王新線新宿駅ポスター掲出(令和4年10月31日～11月27日)
- ・西武池袋線江古田駅ポスター掲出(令和4年10月31日～11月6日)
- ・大江戸線清澄白河駅ポスター掲出(令和4年12月5日～令和5年1月15日)
- ・東京メトロ日比谷線恵比寿駅ポスター掲出(令和4年12月5日～12月25日)
- ・ツイッターターゲット広告、1都3県、20歳以上(令和4年12月2日～12月15日) 表示回数：1,321,742回
- ・インスタグラムターゲット広告1都3県、16歳以上(令和4年12月2日～12月15日) 表示回数：239,438回

#### h. 「恵比寿映像祭2023」

- ・スカイウォーク・バナー(令和5年1月23日～2月19日)
- ・JR線(恵比寿駅、目黒駅、東京駅)、東京メトロ(恵比寿駅、竹橋駅、六本木駅、銀座駅、京橋駅、日本橋駅、目黒駅)、都営線(六本木駅、日本橋駅)、東急線(目黒駅)ポスター掲出(会期中各7日間)
- ・インスタグラムターゲット広告1都3県、16歳以上(令和5年2月3日～2月17日) 表示回数：110,183回

**i. 「深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ」**

- ・都営線チカッ都ビジョンスポットCM 15秒 (①令和5年3月6日～3月12日 ②令和5年3月20日～3月26日)
- ・京王新線新宿駅ポスター掲出 (令和5年3月6日～3月26日)
- ・東京メトロ日比谷線恵比寿駅ポスター掲出 (令和5年3月17日～3月31日)
- ・京王井の頭線下北沢駅ポスター掲出 (令和5年3月17日～3月31日)
- ・ツイッターターゲット広告、1都3県、20歳以上 (令和5年3月1日～3月14日) 表示回数：1,020,070回
- ・インスタグラムターゲット広告1都3県、16歳以上 (令和5年3月1日～3月16日) 表示回数：304,735回



「日本の新進作家vol.19 見るは触れる」J-WAVE SELECTION 『SEEING AS THOUGH TOUCHING』(9月11日) ウェブサイトより

**j. 館広報**

- ・京王線、京王新線、新宿・渋谷ほか「クアトロボード」(令和4年5月20日～9月25日)
- ・『日本写真年報 2022』出稿 (令和4年10月30日)
- ・「TOPデジタルスタンプラリー2022-2023」ツイッターターゲット広告、1都3県、20歳以上  
1期 (令和4年12月4日～12月10日) 表示回数：1,054,983回  
2期 (令和5年3月10日～3月20日) 表示回数：1,580,146回
- ・「TOPデジタルスタンプラリー2022-2023」インスタグラムターゲット広告1都3県、16歳以上  
1期 (令和4年12月4日～12月10日) 表示回数：132,177回  
2期 (令和5年3月10日～3月20日) 表示回数：165,192回
- ・JR東日本J・ADビジョン恵比寿駅西口15秒×2回、8面3柱 (令和5年3月27日～4月2日)
- ・スカイウォークビジョン15秒×2回 (令和5年3月20日～4月2日)
- ・スカイウォークアドポール (令和5年3月20日～4月19日)
- ・令和5年度展覧会 (前期) ツwitterターゲット広告、1都3県、20歳以上 (令和5年3月20日～3月30日) 表示回数：672,682回
- ・令和5年度展覧会インスタグラムターゲット広告、1都3県、16歳以上 (令和5年3月20日～3月30日) 表示回数：242,563回



「恵比寿映像祭2023」『スカイウォーク・バナー』(1月23日～2月19日)



「恵比寿映像祭2023」『ニコニコ美術館』(2月2日) ウェブサイトより



「TOPコレクション 光のメディア」『JR山手線まど上チャンネル』(4月25日～5月1日)



『スカイウォーク・アドポール』(3月20日～4月19日)

**6 存在感のある美術館づくりのための取り組み**

**a. 「TOPコレクション メメント・モリと写真」関連イベント「メメント・モリと落語」**

人間の生き様や、運命の悲喜交々をユーモアと風刺を交えて描かれる日本の伝統芸能「落語」を通じて、展覧会のテーマ「メ



メント・モリ」の世界を深めることを目的に、九代目春風亭柳枝氏を迎えて落語会を開催した。

日時：令和4年8月12日18:30～20:00

会場：1Fホール

出演：春風亭柳枝「死神」ほか一席、柳亭左ん坊 前座

参加費：無料

参加者数：127名



「メント・モリと落語」舞台風景より

### b. 「TOPデジタルスタンプラリー2022-2023」

開催中の展覧会に加え、上映事業や付帯施設といった東京都写真美術館の幅広い事業をPRすることを目的に、3年ぶりにスタンプラリーを実施した。

対象事業(①展覧会 ②上映 ③ショップ ④カフェ)のご鑑賞またはご購入につき付与されるスタンプを、①～④の異なる4つのカテゴリーから2つ以上集めた方に、オリジナル筆箋をプレゼントした。

実施期間：

1期 令和4年12月1日～12月28日

2期 令和5年2月21日～3月31日

参加者数：2,605名

達成者数：170名



スタンプラリー画面



景品(オリジナル筆箋)

### c. カフェ「フロムトップ」と展覧会のコラボレーションメニュー

展覧会をより楽しんでいただくために、カフェ「フロムトップ」と共同企画し、期間限定のオリジナルメニューを提供した。

・「TOPコレクション メメント・モリと写真」

販売メニュー：「メント・モリ 黒いカレー」1,500円(税込)、

「メント・モリ デザートプレート」1,200円(税込)

販売期間：令和4年8月2日～9月25日

・「恵比寿映像祭2023」

販売メニュー：「かぼちゃとにんじんのポタージュとサラダのプレート」1,600円(税込)、

「ネーブルオレンジとホットチョコ

レートのパフェ」1,500円(税込)

販売期間：令和5年2月3日～2月19日

・「深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ」

販売メニュー：「深瀬昌久 1961-1999 レトロスペクティブ」×フロムトップ×Kusa.喫茶 オリジナルコーヒークリーム「1961-1991ブレンド」600円(税込) ほか

販売期間：令和5年3月3日～令和5年6月4日



「メント・モリ デザートプレート」



「かぼちゃとにんじんのポタージュとサラダのプレート」

## 7 屋外掲出(年間契約、有料)

### a. 恵比寿ガーデンプレイス周辺広告

- ・スカイウォーク電飾看板
- ・ポスターボード
- ・自立サイン看板

### b. 美術館外壁

- ・巨大写真ディスプレイ
- ・懸垂幕

### c. JR恵比寿駅周辺広告

- ・ポスター(東口/恵比寿ガーデンプレイス方面)
- ・サイン看板(西口/日比谷改札方面)



自立サイン看板



JR西口サイン看板



スカイウォーク電飾看板



JR恵比寿駅ポスター



巨大写真



懸垂幕

## 9 地域との広報連携

恵比寿ガーデンプレイス (YGP) との広報展開

- ・YGPホームページ

YGPの運営するウェブサイトへ展覧会および上映情報を随時掲載し、利用者への情報発信を行った。

- ・オフィスワーカー割引

YGP利用者のリピート来館のために、オフィスワーカーへの観覧割引サービスと、当館チケットをお持ちの方へのYGP内店舗でのサービス提供を行った。

- ・「TAPS BY YEBISU」への広報展開

JR恵比寿駅構内の飲食店「TAPS BY YEBISU」と共同広報をおこない、周辺施設紹介の一環として店内ディスプレイとフリーペーパーで当館が紹介された。

## 8 財団との広報連携

- ・Welcome Youth (ウェルカムユース) —2023 春— (令和5年3月18日～4月2日)

期間中、18歳以下を対象に展示観覧料を無料化するほか、スタンプラリー企画に協力した。